

5. 教員の活動報告

5-1. 先端人間科学

講座名等	教員氏名
先端人間科学	前迫 孝憲
先端人間科学	苧阪 満里子
先端人間科学	渥美 公秀
先端人間科学	檜垣 立哉
先端人間科学	山本 ベバリー・アン
先端人間科学	Don Bysouth
先端人間科学	石井 正子
先端人間科学	奥林 泰一郎

所属学系	先端人間科学	氏名	前迫 孝憲
------	--------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	30 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	1 件
			副査	0 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	27 名
	指導教員	8 名	2 名	留学生	5 名
	副指導教員	0 名	2 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	7 件	3 件	2 件	3 件	1 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	日本博物館的公共文化资源建设和活动设计	孫帙, 李哲, 前迫孝憲, 張海	201405	中国信息技术教育 186 卷,9 号, pp87-90
学術論文	日本大学外语教育中 e-learning 与 JMOOC 的实践和探索	李哲, 前迫孝憲, 孫帙, 張成, 張海	201406	中国信息技术教育 188 卷,11 号, pp99-102
学術論文	构建课堂·学校·地域·国际的协作学习场—日本协作学习教学实践案例介绍	孫帙, 李哲, 前迫孝憲, 張海	201407	中国信息技术教育 190 卷,13 号, pp98-102
学術論文	知识时代的知识地图—日本知识可视化研究前沿	李哲, 前迫孝憲, 孫帙, 李章傑, 張海	201408	中国信息技术教育 192 卷,15 号, pp123-125
学術論文	联合国 ESD 项目在日本与课程深度融合的经验与启示—以日本可持续发展教育十年计划为例	孫帙, 前迫孝憲, 李哲, 張海	201409	中国信息技术教育 194 卷,17 号, pp94-97
学術論文	日本教育技术研究发展回顾与展望—日本教育工学协会 30 周年纪念大会(JSET2014)综述	孫帙, 李哲, 前迫孝憲, 張海	201411	中国信息技术教育 198 卷,21 号, pp102-105
学術論文	A Documentation Platform for Supporting and Assessing Collaborative Knowledge Building in Learning Computer Programming	Sun Zhi,Zaorski Spence,Nishimori Toshihisa,Maesako Takanori,Nakamura Masako,Imamura Rie	201503	Annals of Educational Studies Osaka University 20 号,pp77-89
学術論文	国際遠隔交流学習による日本語会話授業—「超鏡」を用いた中日の大学間の実践をもとに—	李哲, 孫帙, 奧林泰一郎, 中村雅子, 前迫孝憲	201503	大阪大学教育学年報 20 号,pp63-76
学術論文	看護学生と看護師のベッド周辺環境の観察力の違い	米田照美, 伊丹君和, 川端愛野, 清水房枝, 黒田恭史, 前迫孝憲	201503	日本人間工学会看護人間工学部会看護人間工学研究誌 15 卷,pp31-36
口頭発表	Student history detectives make history come alive: Ideas for replicating Intergenerational Interviews	Takanori Maesako, Spence Zaorski, Agnes Zaorski	201406	ISTE(Atlanta)

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	Ed tech in Japan: The latest trends, solutions and opportunities	Takanori Maesako, Yoshimi Sasada, Spence Zaorski	201406	Poster / ISTE(Atlanta)
口頭発表	Hyper Mirror System Based Collaborative Language Learning between Foreign Language Learners and Native Speakers	Sun Zhi, Li Zhe, Zaorski Spence, Okubayashi Taiichiro, Maesako Takanori, Zhang Hai	201406	IEEE IE Proceedings pp306-309 / 2014 International Conference on Intelligent Environments
口頭発表	モバイル端末管理ツールを用いた遠隔学習環境の構築と実践	奥林泰一郎, ゼオースキ スペンス, 孫軼, 中村雅子, 前迫孝憲	201409	日本教育工学会第30回全国大会論文誌 pp485-486 / 日本教育工学会第30回全国大会
口頭発表	A Platform of Collaborative Knowledge Building for Learning Computer Programming	Sun Zhi, Li Zhe, Zaorski Spence, Okubayashi Taiichiro, Maesako Takanori, Zhang Hai	201409	Proceedings of The 30th Annual Conference of JSET E1p-031-02 pp939-940 / The 30th Annual Conference of JSET
口頭発表	伝統と技術革新の狭間	前迫孝憲	201409	/ 教育システム情報学会第39回全国大会(基調講演)
国際会議 (proc.あり)	Evaluation of Three-Site Multipoint Distance Learning using High-Definition "HyperMirror"	Taichiro Okubayashi, Akiko Nakazawa, Hideki Mori, Takanori Maesako, Osamu Morikawa	201412	pp945-950 / Proceedings of the 22nd International Conference on Computers in Education Liu, C.-C. et al.
報告	高等学校におけるグローバル化を志した科学教育研究事業—京都府 SSH・SGH の実際—	河崎哲嗣, 斉藤和彦, 前迫孝憲	201503	岐阜大学教育学部研究報告—教育実践研究— 17巻, pp11-22 /

所属学系	先端人間科学	氏名	苧阪 満里子
------	--------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	14 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	1 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	2 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	2 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	6 件	7 件	4 件	1 件	1 件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「読書における文の理解とワーキングメモリ」, 苧阪直行(編), 『小説を愉しむ脳』, 新曜社, 全 224 ページ	苧阪 満里子	201409	新曜社 105-137
著書	もの忘れの脳科学	苧阪 満里子	201407	講談社
学術論文	Age and individual differences in visual working memory deficit induced by overload.	Matsuyoshi, D., Osaka, M., & Osaka, N.	201405	Frontiers in Psychology 42011.475
学術論文	Serial changes of humor comprehension for four-frame comic Manga: an fMRI study.	Osaka, M., Yaoi, K., Minamoto, T., & Osaka, N.	201407	Scientific Reports 42017.2138888889
学術論文	Coactivation of the Default Mode Network regions and Working Memory Network regions during task preparation.	Koshino, H., Minamoto, T., Yaoi, K., Osaka, M., & Osaka, N.	201408	Scientific Reports 42016.3013888889
学術論文	Robust order representation is required for backward recall in the Corsi blocks task.	Higo, K., Minamoto, T., Ikeda, T., & Osaka, M.	201411	Frontiers in Psychology 42015.1006944444
学術論文	The anodal tDCS over the left posterior parietal cortex enhances attention toward a focus word in a sentence.	Minamoto, T., Azuma, M., Yaoi, K., Ashizuka, A., Mima, T., Osaka, M., Fukuyama, H., & Osaka, N.	201412	Frontiers in Human Neuroscience 42014.0222222222
学術論文	Effect of memory load on eye movement control: A study using the reading span test.	Azuma, M., Minamoto, M., Yaoi, K., Osaka, M., & Osaka, N.	201412	Journal of Eye Movement Research 7(5):3, 1-9
口頭発表	Neural synchronization during cooperated humming: A hyperscanning study using fNIRS.	Osaka, N., Minamoto, T., Yaoi, K., Azuma, M., & Osaka, M.	201404	Procedia - Social and Behavioral Sciences 126, 241-243 / International Conference on Timing and Time Perception

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	鎮静レベルのミダゾラムとプロポフォールの記憶への影響	荻阪満里子・中江文・池田尊司・源健宏・萩平哲・藤野裕士	201405	日本麻酔科学会第 61 回大会
口頭発表	Effect of midazolam and propofol sedation on memory function.	Nakae A., Osaka M., Ikeda T., Minamoto T., Hagihira S., & Fujino Y.	201406	European Journal of Anaesthesiology 31, Supplement 52, 120 / Euroanaesthesia 2014
口頭発表	Neural correlates of working memory under the second order false belief task: An event-related fMRI study based on theory of mind.	Osaka, N., Yaoi, K., Minamoto, T., & Osaka, M.	201407	Poster Abstracts 42099 / International Conference on Working Memory 2014
口頭発表	三段階の鎮静におけるワーキングメモリ	荻阪 満里子, 遠藤香織, 池田 尊司, 源健宏, 中江 文	201409	発表論文集 738 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	RST 遂行中の眼球運動における記憶負荷の影響	東美由紀, 源健宏, 矢追健, 荻阪満里子, 荻阪直行	201409	発表論文集 850 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	ハイパースキャニングによる協調活動時の脳同期的活動の測定—fNIRS による検討—	荻阪直行, 源健宏, 矢追健, 東美由紀, 荻阪満里子	201409	発表論文集 766 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	意図と関係性を理解する脳内神経基盤—fMRI による検討—	矢追健, 源健宏, 荻阪満里子, 荻阪直行	201409	発表論文集 753 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	ワーキングメモリにおける特徴統合と脳の同期的活動	源健宏, 池田尊司, 遠藤香織, 中江文, 荻阪満里子	201409	発表論文集 740 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	Two brains make one Mind: Hyperscanning study on synchronized singing/humming between two people using fNIRS.	Osaka, N., Minamoto, T., Yaoi, K., Azuma, M., & Osaka, M.	201411	Abstract 6 / Psychonomic Society's 55th Annual Meeting
口頭発表	Rinzai Zen meditators are superior to resolve semantic interference: An fMRI study based on a Stroop paradigm.	Osaka, N., Yaoi, K., Minamoto, T., Azuma, M., & Osaka, M.	201411	Program #554.14 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	Temporal desynchronisation may underlie audio-spatial binding in working memory: An EEG study under anesthesia in humans.	Minamoto, T., Ikeda, T., Endo, K., Nakae, A., Hagihira, S., Fujino, Y., Mashimo, T., & Osaka, M.	201411	Program #554.05 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	Neural correlates of intention and relationship attribution of animated motion: An fMRI study.	Yaoi, K., Minamoto, T., Osaka, M., & Osaka, N.	201411	Program #460.08 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	Conscious level required for working memory and long-term memory functions: An anesthesia study in humans.	Osaka, M., Endo, K., Ikeda, T., Minamoto, T., Nakae, A., Hagihira, S., Fujino, Y., & Mashimo, T.	201411	Program #173.15 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	麻酔薬がワーキングメモリの特徴統合と前頭葉の同期的活動に及ぼす影響	源健宏, 池田尊司, 中江文, 荻阪満里子	201412	アブストラクト集 no. 12 / 日本ワーキングメモリ学会第 12 回大会
口頭発表	フォーカス・リーディングスパンテストおよび非フォーカス・リーディングスパンテストにおける加齢効果の検討	新井智大, 荻阪満里子	201412	アブストラクト集 no. 3 / 日本ワーキングメモリ学会第 12 回大会
口頭発表	視空間課題における高齢者の系列記憶機能の検討	肥後克己, 荻阪満里子	201412	アブストラクト集 no. 2 / 日本ワーキングメモリ学会第 12 回大会

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201405	菅阪満里子, 中江文, 池田尊司, 源健宏, 萩平哲, 藤野裕士	優秀演題	日本麻酔科学会

所属学系	先端人間科学	氏名	渥美 公秀
------	--------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	20 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	3 名	3 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	2 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	5 件	2 件	2 件	3 件	1 件	3 件	0 件
	その他 新聞 8 件、ラジオ 4 件						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	Q16-17,Q22-23 矢守克也 編 被災地デイズ	渥美公秀	201407	弘文堂
著書	ボランティアが開く未来「災害と文明」取材班編 災害と文明	渥美公秀	201503	潮出版社
著書	刊行によせて 大西愛 編 アーカイブ・ボランティア 国内の被災地で、そして海外の難民資料を	渥美公秀	201406	大阪大学出版会 i - v
著書	Against the drive for institutionalization:Two Decades of Disaster Volunteers in Japan In A.E.Cllins,S.Jmees,B.Manyena ,J.Jayawickrama(Eds) Hazards,Risks,and disasters in Society.	Atsumi.T	201412	Elsevier 19-32
著書	災害ボランティアの新たな課題 内海成治 中村安秀 編 新ボランティア学のすすめ 支援する/されるフィールドで何を学ぶか	渥美公秀	201412	昭和堂 228-242
学術論文	Relaying support in disaster-affected areas:the social implications of a 'pay-it-forward'	Tomohide Atsumi	201407	Disaster 38 巻,s2 号,pp144-156 /
解説・総説	私のいちばん長い日	渥美公秀	201412	ウオロ 498 号,pp9-
解説・総説	災害ボランティアを考える	渥美公秀	201501	リハビリテーション 570 号,pp27-30

所属学系	先端人間科学	氏名	檜垣 立哉
------	--------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	1 件
			副査	0 件	4 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	5 名
	指導教員	9 名	9 名	留学生	名
	副指導教員	3 名	4 名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	6 件	3 件	3 件	件	1 件	4 件	1 件
その他	著書は単著 1 編著 1 翻訳 1 分担執筆 3 そのうち英語 1 フランス語 1						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	哲学者、競馬場へ行く	檜垣立哉	201411	青土社
著書	『生そのものの政治学 二十一世紀の生物医学、権力、主体性』	ニコラス・ローズ	201410	法政大学出版局
著書	Deleuze and Asia (Cap3 p.48-72 の執筆)	Bogue, Chiu, Lee	201410	Cambridge Scholars Publishing 48-59
著書	『サルトル読本』「サルトルとドゥルーズ」執筆	澤田直編	201503	法政大学出版局
著書	Différence, différend : Deleuze et Lyotard, Visage, affectivité et figure の章	Corinne Enaudeau et Frédéric Fruteau de Laclos	201503	Encre Marine
著書	『バイオサイエンス時代から考える人間の未来』	檜垣立哉編	201503	勁草書房
著書	『日本人と馬 埒を越える十二の対話』第三章第二部「日本競馬観客考」	立川健二 檜垣立哉 園部花子	201503	東京農業大学出版会
学術論文	デリダの生命/動物論	檜垣立哉	201409	フランス哲学・思想研究 19号 53-64/ 日仏哲学会
学術論文	Théorie de la technologie chez MIKI	HIGAKI, Tatsuya	201502	La réception et la résistance; La vie selon les sciences occidentales et le Japon 国際日本学研究会選書22 215-241/ 法政大学国際日本学研究所 法政大学国際日本学研究所
学術論文	バロックの哲学第四章 ベンヤミン アレゴリー論の拡がり	檜垣立哉	201503	『思想』1091 巻 117-134/ 岩波書店
書評	ドゥルーズ後期読解の成熟	檜垣立哉	201409	図書新聞 3176号 巻頭頁
解説・総説	動物と人間のあいだ 哲学的視点から	檜垣立哉	201406	生産と技術 Vol66-3,115-117/ 生産技術振興協会
解説・総説	aiko について 日常の中の愛の巫女	檜垣立哉	201409	群像 69-10 180-181/ 群像編集部 講談社
解説・総説	競馬場で哲学者が考えたこと	檜垣立哉	201502	文藝春秋 2015 年 3 月号

所属学系	先端人間科学	氏名	山本 ベバリー・アン
------	--------	----	------------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	17 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	4 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	7 名
	指導教員	4 名	7 名	留学生	10+24 名
	副指導教員	3 名	1 名	研究生	1 名
				その他	人間科学英語コー38 (24) 名

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	2 件	4 件	1 件	0 件	0 件	0 件
その他	国際機関による委託研究の報告書 1 件						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	日本の外国人学校 トランスナショナルリティをめぐる教育政策の課題	志水宏吉、中島智子、鍛冶致 編	201407	明石書店
著書	大阪大学新世紀レクチャー 改訂版 ジェンダー・スタディーズー女性学・男性学を学ぶー	牟田 和恵編	201503	大阪大学出版
著書	A handbook for enhancing English-medium program quality and practice: Towards effective teaching, learning and assessment.	Yamamoto, B., Bysouth, D.	201503	大阪大学出版会
学術論文	「国際バカロレア (IBDP) 修了生の受け入れに関してー大阪大学 G30 英語学部コースでの経験よりー」	山本ベバリーアン	201406	文部科学教育通信 341 号, pp24-26 / ジアース教育新社
学術論文	『日本の外国人学校ートランスナショナルリティをめぐる教育政策の課題』志水宏吉、中島智子、鍛冶致編、第 5 部第 2 章『「西町文化」を発信するー西町インターナショナルスクール』	キム・ヴィクトリヤ (翻訳: 藤田智博)	201407	
学術論文	Designing a safeguarding tool for Japanese professionals to identify, understand and respond to adolescent sexual behaviours	山本 ベバリアン、北野 尚美	201501	Environmental Health and Preventative Medicine / The Japanese Society for Hygeine Springer
口頭発表	Small steps towards ambitious goals: HAE patient advocacy in Japan	Beverley Yamamoto	201405	/ HAE Global Conference
口頭発表	「国際バカロレアの視点からとらえた日本の学校教育」～中等教育と大学教育のつながりに焦点をあてて～	山本 ベバリーアン	201406	/ 第 4 回 TGUISS 公開研究会 グローバルスタンダードに立脚した中等教育の「学びのあり方」～多様な学習評価から設計する探究型授業～

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	若者の性的動に対する専門家が用いている診断と対処の日本版ツールの開発について-英国の Traffic Light Tool の応用	山本 ベバリーアン、 北野 尚美	201408	第 33 日本思春期学会
国際会議 (proc.なし)	Freedom from National(izing) Constraints: International Schooling and the (Re)positioning of Local Elites in Japanese Education	Beverley Yamamoto	201407	ASIAN STUDIES ASSOCIATION OF AUSTRALIA (ASAA) CONFERENCE
国際会議 (proc.なし)	How is sexual risk constructed? A comparative study of young mothers, their teachers and sexual health nurses in the UK	山本 ベバリーアン	201410	Asia Oceania Federation of Sexology Conference
国際会議 (proc.なし)	The Hard Work of Making it Work: The Japanese International Baccalaureate 200 School Project and the Dynamics of Localization	Yamamoto Beverley	201503	Comparative and International Education Society
報告	Implementation and Impact of the IB Dual Language Diploma Program in Japanese Secondary Schools. Interim Report	Beverley Anne Yamamoto ed., Takahiro Saito, Maki Shibuya, Yukiko Ishikura, Mari Tsugawa, Adam Gyenes, Viktoriya Kim, Yujichiro Wajima, Kim Mawer, Chika Kitano	201503	
その他	Learning from Advanced Special Healthcare Systems for Rare Disease Patients in Japan	Beverley Yamamoto	201406	World Orphan Drugs Conference Asia
その他	"A Handbook for Enhancing English-Medium Program Quality and Practice: Towards Effective Teaching, Learning and Assessment" Beverley A. Yamamoto and Don Bysouth eds., Part Two, Chapter 8 "Syllabus Design"	Kim Viktoriya	201503	

所属学系	先端人間科学	氏名	Don Bysouth
------	--------	----	-------------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	19 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	3 件	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	1 名
	副指導教員	3 名	3 名	研究生	名
				その他	9

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	2 件	3 件	件	件	1 件	件
	その他	1					

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	A handbook for enhancing English-medium program quality and practice: Towards effective teaching, learning and assessment.	Yamamoto, B., Bysouth, D.	201503	大阪大学出版会
学術論文	Collateral damage: An investigation of non-combatant teasing by American service personnel in occupied Iraq and Afghanistan.	Don Bysouth, Sohail Jeloos-Haghi, Keiko Ikeda	201406	Pragmatics & Society Forthcoming
口頭発表	ICT use for cross-cultural/intercultural competence training.	Don Bysouth, Keiko Ikeda	201404	The fourth annual Asian conference on technology in the classroom. Osaka, Japan. /
口頭発表	Conversation analysis across borders	Greer, T., Bysouth, D., Ikeda, K., Leyland, C.	201411	Panel presentation JALT2014: Conversations across borders. 40th Annual international conference on language teaching and learning & education materials exhibition. Tsukuba International Congress Center, Tsukuba, Japan. / Panel presentation JALT2014: Conversations across borders. 40th Annual international conference on language teaching and learning & education materials exhibition. Tsukuba International Congress Center, Tsukuba, Japan.
国際会議 (proc.あり)	Cross-cultural epistemic displays in multiple participant synchronous video-mediated interactions.	Bysouth, D., Ikeda, K.	201406	Skype Connections and the Gaze of Friendship and Family Conference, Microsoft Research Cambridge, Cambridge, United Kingdom. / Skype Connections and the Gaze of Friendship and Family Conference, Microsoft Research Cambridge, Cambridge, United Kingdom.

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
国際会議 (proc.あり)	Doing COIL in Japan	Ikeda, K., Bysouth, D.	201503	7th Annual COIL Conference. The Expanding Landscape of COIL Practitioners, Networks, and Hubs: What's Next? Centre for Collaborative Online International Learning, SUNY Global Centre, SUNY, New York, USA. / 7th Annual COIL Conference. The Expanding Landscape of COIL Practitioners, Networks, and Hubs: What's Next? Centre for Collaborative Online International Learning, SUNY Global Centre, SUNY, New York, USA
その他	"A Handbook for Enhancing English-Medium Program Quality and Practice: Towards Effective Teaching, Learning and Assessment" Beverley A. Yamamoto and Don Bysouth eds., Part Two, Chapter 8 "Syllabus Design"	Kim Viktoriya	201503	

所属学系	先端人間科学	氏名	石井 正子
------	--------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	5 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	1 件	11 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	0 名	2 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	0 件	0 件	2 件	0 件	1 件	1 件
	その他						

所属学系	先端人間科学	氏名	奥林 泰一郎
------	--------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	0 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	1 件	4 件	1 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	国際遠隔交流学習による日本語会話授業—「超鏡」を用いた中日の大学間の実践をもとに—	李哲, 孫帙, 奥林泰一郎, 中村雅子, 前迫孝憲	201503	大阪大学教育学年報 20 号, pp63-76
口頭発表	電子黒板とタブレットの活用アイデアを授業に組み入れた学生評価	堀田博史, 松河秀哉, 奥林泰一郎, 佐藤朝美, 中村恵, 深見俊崇	201405	日本保育学会第 67 回大会発表要旨集 pp212-212
口頭発表	テクノロジーの進歩に伴う保育におけるメディア活用の再検討	深見俊崇, 松山由美子, 中村恵, 佐藤朝美, 松河秀哉, 奥林泰一郎, 堀田博史	201405	日本保育学会第 67 回大会発表要旨集 pp213-213
口頭発表	Hyper Mirror System Based Collaborative Language Learning between Foreign Language Learners and Native Speakers	Sun Zhi, Li Zhe, Zaorski Spence, Okubayashi Taiichiro, Maesako Takanori, Zhang Hai	201406	IEEE IE Proceedings pp306-309 / 2014 International Conference on Intelligent Environments
口頭発表	タブレット端末を活用した保育での取り組み内容の調査	堀田博史, 松河秀哉, 奥林泰一郎, 森田健宏, 深見俊崇, 中村恵, 松山由美子, 佐藤朝美	201409	日本教育工学会第 30 回全国大会講演論文集 pp557-558
口頭発表	モバイル端末管理ツールを用いた遠隔学習環境の構築と実践	奥林泰一郎, ゼオースキ スpens, 孫帙, 中村雅子, 前迫孝憲	201409	日本教育工学会第 30 回全国大会論文誌 pp485-486 / 日本教育工学会第 30 回全国大会
口頭発表	A Platform of Collaborative Knowledge Building for Learning Computer Programming	Sun Zhi, Li Zhe, Zaorski Spence, Okubayashi Taiichiro, Maesako Takanori, Zhang Hai	201409	Proceedings of The 30th Annual Conference of JSET E1p-031-02 pp939-940 / The 30th Annual Conference of JSET

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
国際会議 (proc.あり)	Evaluation of Three-Site Multipoint Distance Learning using High-Definition “HyperMirror”	Taiichiro Okubayashi, Akiko Nakazawa, Hideki Mori, Takanori Maesako, Osamu Morikawa	201412	Proceedings of the 22nd International Conference on Computers in Education pp945-950 / The 22nd International Conference on Computers in Education
報告	停電時にも運用可能なネットワーク —事前に準備しておくことの大切さ—	奥林 泰一郎	201501	生産と技術 67 巻,1 号,pp41-43

5-2. 行動学系

講座名等	教員氏名
人間行動学	森川 和則
人間行動学	赤井 誠生
人間行動学	松下 戦具
人間行動学	篠原 一光
人間行動学	紀ノ定 保礼
人間行動学	釘原 直樹
人間行動学	阿形 亜子
人間行動学	佐藤 眞一
人間行動学	権藤 恭之
人間行動学	中川 威
人間行動学	青野 正二
人間行動学	臼井 伸之介
人間行動学	中井 宏
行動生態学	日野林 俊彦
行動生態学	金澤 忠博
行動生態学	清水 真由子
行動生態学	志村 剛
行動生態学	八十島 安伸
行動生態学	乾 賢
行動生態学	足立 浩平
行動生態学	宮本 友介
行動生態学	熊倉 博雄
行動生態学	中野 良彦
行動生態学	日暮 泰男
行動生態学	中道 正之
行動系共通	安達 悠子

所属学系	行動学系	氏名	森川 和則
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	20 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	名	2 名	留学生	名
	副指導教員	1 名	2 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	4 件	件	6 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	化粧錯視および顔錯視の測定と考察	森川 和則	201405	日本色彩学会誌 Vol.38, No.3, PP.120-125
学術論文	メーキャップの錯視効果	山南 春奈, 松下 戦具, 森川 和則	201409	人間生活工学 Vol.15, No.2, pp.23-26
学術論文	A real-life illusion of assimilation in the human face: eye size illusion caused by eyebrows and eye shadow.	Morikawa, K., Matsushita, S., Tomita, A. and Yamanami, H.	201503	Frontiers in Human Neuroscience Vol.9, No.139, PP.1-9
口頭発表	頭部の幅によって身長が違って見える錯視	松下 戦具, 野崎 友裕, 森川和則	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集
口頭発表	アイラインの範囲と観察距離による目の大きさ錯視量	森川 和則, 山南 春奈, 松下 戦具, 富田 瑛智	201410	日本顔学会誌 Vol.14, p.159 / 日本顔学会
口頭発表	魅力的な目の大きさ: 平均顔でも目は平均より大きいほうが良い?	松下戦具, 森川和則, 加古真也, 山南春奈	201410	日本顔学会誌 Vol.14, No.1, P.160 / 日本顔学会
口頭発表	シニョン(おだんご髪型)による横顔の錯視と印象変化	武藤 祐子, 森川 和則, 富田 知子, 野村 弘平	201410	日本顔学会誌 Vol.14, No.1, P.161 / 日本顔学会
口頭発表	眼鏡フレームによる目の大きさ錯視	森川 和則, 松下 戦具, 大國 晶弘, 山南 春奈	201410	日本顔学会誌 Vol.14, No.1, P.186 / 日本顔学会
解説・総説	基礎心理学と太陽の塔	森川 和則	201409	基礎心理学研究 Vol.33, No.1, 109-111 / 日本基礎心理学会 日本基礎心理学会

所属学系	行動学系	氏名	赤井 誠生
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	10 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	1 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	2 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	3 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	思春期女子に見られる乳幼児への関心	日野林俊彦,清水真由子,大西賢治,金澤忠博,赤井誠生,南徹弘	201409	日本心理学会第78回大会発表論文集 pp1017-1017 / 日本心理学会第78回大会
口頭発表	選択順序への制御焦点と主観的価値の影響	富田瑛智・大久保直方・松下戦具・赤井誠生	201409	日本心理学会第78回大会発表論文集 / 日本心理学会第78回大会

所属学系	行動学系	氏名	松下 戦具
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	3 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	3 件	1 件	8 件	1 件	0 件	0 件
	その他	科研費 1 件					

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	メーキャップの錯視効果	山南 春奈, 松下 戦具, 森川 和則	201409	人間生活工学 Vol.15, No.2, pp.23-26
学術論文	A real-life illusion of assimilation in the human face: eye size illusion caused by eyebrows and eye shadow.	Morikawa, K., Matsushita, S., Tomita, A. and Yamanami, H.	201503	Frontiers in Human Neuroscience Vol.9, No.139, PP.1-9
口頭発表	楽器間の時差がグルーブを喚起する効果心理学的検討	松下戦具,野村真吾	201406	日本認知心理学会第 12 回大会発表論文集 pp52- / 日本認知心理学会第 12 回大会
口頭発表	Your eyes want to see the illusion: Directional asymmetry of eye movements increases illusory motion	Matsushita, S., Muramatsu, S., & Kitaoka, A.	201407	i-Perception 5 巻,4 号,pp325- / The Asia-Pacific Conference on Vision (APCV) 2014
口頭発表	頭部の幅によって身長が違って見える錯視	松下戦具,野崎友裕, 森川和則	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	選択順序への制御焦点と主観的価値の影響	富田瑛智,大久保直方,松下戦具,赤井誠生	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 pp890- / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	魅力的に見える相貌とは? :進化論・化粧・撮影方法からの実験心理学的考察	松下戦具	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 ppSS(7)- / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	頭部の幅によって身長が違って見える錯視	松下 戦具、野崎 友裕、森川和則	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集
口頭発表	アイラインの範囲と観察距離による目の大きさ錯視量	森川 和則, 山南 春奈, 松下 戦具, 富田瑛智	201410	日本顔学会誌 Vol.14, p.159 / 日本顔学会
口頭発表	魅力的な目の大きさ: 平均顔でも目は平均より大きいほうが良い?	松下戦具, 森川和則, 加古真也, 山南春奈	201410	日本顔学会誌 Vol.14, No.1, P.160 / 日本顔学会
口頭発表	眼鏡フレームによる目の大きさ錯視	森川 和則, 松下 戦具, 大國 晶弘, 山南春奈	201410	日本顔学会誌 Vol.14, No.1, P.186 / 日本顔学会
口頭発表	輝度の勾配を持つ静止画の残像が動いて見える錯視—継時対比の検討—	松下戦具	201501	Vision 27 巻,1 号,pp55- / 日本視覚学会 2015 年冬季大会

所属学系	行動学系	氏名	篠原 一光
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	21 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	0 件	1 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	4 名	2 名	留学生	2 名
	副指導教員	3 名	3 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	3 件	3 件	1 件	0 件	1 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	IVIS 機器操作に伴うドライバの精神的負担評価のためのマルチモーダル刺激検出課題の実車実験における妥当性検討	藤井達史,内藤宏,篠原一光,石川貴洋,松岡孝,石田健二,榎田亨,朝尾隆文,鈴木哲,小谷賢太郎	201407	自動車技術会論文集 45 巻,4 号,pp723-728
学術論文	Distribution of attention in augmented reality: comparison between binocular and monocular presentation	Akihiko Kitamura, Hiroshi Naito, Takahiko Kimura, Kazumitsu Shinohara, Takashi Sasaki, Haruhiko Okumura	201411	IEICE Transactions on electronics E97-C 巻,11 号,pp1081-1088
学術論文	Task demand of sequentially presented information while moving in augmented reality	Takahiko Kimura, Naoyuki Midorikawa, Kazumitsu Shinohara, Toshiaki Miura	201412	Psychology research 4 巻,12 号,pp929-935 / David Publishing
口頭発表	指さしのプランニングによって生じる視覚的注意の経時的変化	山口冬馬,篠原一光	201411	関西心理学会第 126 回大会発表論文集 73 pp73-73
国際会議 (proc.あり)	The superiority of widespread monocular augmented reality presentation in a manual tracing task	Akihiko Kitamura, Hiroshi Naito, Takahiko Kimura, Kazumitsu Shinohara, Takashi Sasaki, Haruhiko Okumura	201412	The 21st International Display Workshops
国際会議 (proc.なし)	Pre-cueing of correct response enhances the Simon effect	Fei Tian, Kazumitsu Shinohara	201407	/ The 10th Asia-Pacific Conference on Vision
国際会議 (proc.なし)	The modulation of muscle activity for constant force control by the cognitive processes involved in response-conflict task	Tatsufumi Fujii, Hiroshi Naito, Kazumitsu Shinohara	201409	/ The 17th World Congress of Psychophysiology

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
解説・総説	二重課題法によるドライバのメンタルワークロード測定	篠原一光	201409	自動車開発における人間工学の理論と実践—ドライバの特性を考えた車づくり 42018号,pp38-43 / 自動車技術会

所属学系	行動学系	氏名	紀ノ定 保礼
------	------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	3 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	0 件	1 件	2 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	運転者状態の検知・共有による交通事故低減技術の開発	内海章・多田昌裕・山本直樹・紀ノ定保礼・松尾典義・鳥居武史・志堂寺和則・今村興平	201405	映像情報メディア学会技術報告 Vol. 38, No. 18 / 映像情報メディア学会
口頭発表	運転者状態の車外呈示による歩行者の危険行動の抑止可能性	紀ノ定保礼, 内海章, 多田昌裕, 松尾典義, 鳥居武史, 志堂寺和則	201410	公益社団法人自動車技術会 2014 年秋季大会学術講演会前刷集 No.99-14, pp17-20 / 公益社団法人自動車技術会 2014 年秋季大会
国際会議 (proc.なし)	Trust in an approaching vehicle: Psychological processes during the estimation of time-to-contact at an intersection in Japan	Kinosada Yasunori, Usui Shinnosuke	201407	Program 361 / 28th International Congress of Applied Psychology

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201405	紀ノ定保礼	2014 年度「大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度」若手研究者枠	日本社会心理学会

所属学系	行動学系	氏名	釘原 直樹
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	19 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	6 名	2 名	留学生	1 名
	副指導教員	2 名	0 名	研究生	0 名
				その他	0

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	4 件	1 件	11 件	0 件	1 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	スケープゴートینگ -- 誰が、なぜ「やり玉」に挙げられるのか	釘原直樹,村上幸史,植村善太郎,岡本真一郎,吉川肇子,阿形亜子	201412	有斐閣
学術論文	スポーツ集合的効力感尺度の改訂・邦訳と構成概念妥当性の検討	内田 遼介・町田 萌・土屋 裕睦・釘原 直樹	201412	体育学研究 59 巻,2 号,pp841-854
学術論文	精神障害者に対する心理的排除に影響を及ぼす不安度要因および理解度要因について	武藤麻美・釘原直樹	201503	病院・地域精神医学 57 巻,2 号, pp192-200
学術論文	緊急事態におけるパニック発生説の真偽	釘原直樹	201503	対人社会心理学研究 印刷中
学術論文	集団形成過程が内集団バイアスに及ぼす影響	正高杜夫・釘原直樹	201503	対人社会心理学研究 印刷中
学術論文	潜在的欺瞞性認知が広告への態度に与える影響—GNATを用いた欺瞞性認知測定の試み—	大工泰裕・釘原直樹	201503	対人社会心理学研究 印刷中
学術論文	攻撃評価に評価者の不快感情が与える影響—調整要因としての加害者の集団カテゴリー	寺口司・釘原直樹	201503	対人社会心理学研究 15 号,
学術論文	集団成績フィードバックが社会的補償に及ぼす影響	阿形亜子, 釘原直樹	201503	応用心理学研究 40 巻, 3 号, pp226-227
口頭発表	加害時におけるラベリング行動:ゲーム場面におけるチーム名の決定による検討	寺口司・釘原直樹	201407	日本社会心理学会第 55 回大会論文集 pp34-34 / 日本社会心理学会第 55 回大会
口頭発表	サイバーローファーは本当に怠け者か—他の職務逸脱行動及び職務へのモチベーションとの関連—	阿形亜子・釘原直樹	201407	日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集 pp38-38 / 日本社会心理学会第 55 回大会
口頭発表	わが国における Asch 型同調実験の 30 年ぶりの追試	釘原直樹・寺口司・内田遼介・阿形亜子	201407	日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集 pp126-126 / 日本社会心理学会第 55 回大会

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	個々の集会的効力感と努力量の関連性に対する能力差の影響	内田 遼介・釘原 直樹・土屋 裕睦	201407	日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集 pp205-205 / 日本社会心理学会第 55 回大会
口頭発表	感情コミュニケーションと非言語チャンネル	曹美庚・釘原直樹	201407	日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集 pp275-275 / 日本社会心理学会第 55 回大会
口頭発表	リスクイメージに基づいた災害・事故等の分類の試み 一般社会人データによる検討	植村善太郎・村上幸史・阿形亜子・釘原直樹	201409	日本心理学会第 78 回大会論文集
口頭発表	感情コミュニケーションにおける非言語チャンネルの利用:韓国人大学生を対象とした感情表示の分析	曹美庚・釘原直樹	201409	日本心理学会 第 78 回大会発表論文集 / 日本心理学会 第 78 回大会
口頭発表	高齢者における様々なリスクに対する認知	植村善太郎・村上幸史・阿形 亜子・釘原 直樹	201409	日本グループ・ダイナミクス学会第 61 回大会論文集 pp130-131 / 日本グループ・ダイナミクス学会第 61 回大会
口頭発表	ラベリングが自身の攻撃行動の正当化に及ぼす影響	寺口司・釘原直樹	201409	日本グループ・ダイナミクス学会第 61 回大会論文集 pp182-183 / 日本グループ・ダイナミクス学会第 61 回大会
口頭発表	モノレール緊急停止時の案内方法による乗客の心理の違い—適切な案内方法の検討—	高原龍二・釘原直樹	201410	日本パーソナリティ心理学会第 23 回大会発表論文集 pp91-91 / 日本パーソナリティ心理学会第 23 回大会

所属学系	行動学系	氏名	阿形 亜子
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	3 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	1 件	件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	スケープゴートینگ -- 誰が、なぜ「やり玉」に上げられるのか	釘原直樹, 村上幸史, 植村善太郎, 岡本真一郎, 吉川肇子, 阿形亜子	201412	有斐閣 41-61
学術論文	集団成績フィードバックが社会的補償に及ぼす影響	阿形亜子, 釘原直樹	201503	応用心理学研究

所属学系	行動学系	氏名	佐藤 眞一
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	13 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	2 件	0 件
		副査	0 件	1 件	

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	8 名
	指導教員	8 名	2 名	留学生	1 名
	副指導教員	7 名	8 名	研究生	2 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	3 件	1 件	4 件	4 件	1 件	2 件	3 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	老いのこころ—加齢と成熟の発達心理学	佐藤眞一・高山 緑・増本康平	201406	有斐閣
著書	高齢者のこころとからだ事典	日本老年行動科学会監修, 大川一郎編集代表, 佐藤眞一ほか編	201409	中央法規出版
著書	3ステップで理解する 認知症 相談・対応のポイント	佐藤眞一	201503	大阪府
翻訳	父母老後為什麼總是那麼固執? 聽見老年人心理和行為轉變背後的心聲(原題「ご老人は謎だらけ 老年行動学が解き明かす」)	佐藤眞一(林美琪訳)	201404	木馬文化
学術論文	認知症の利用者に対する介護職員の感情的負担感に及ぼす有能感の影響	大庭輝・高宏・佐藤眞一	201407	認知症ケア学会誌 13 巻, pp482-489 /
口頭発表	介護職員が抱く認知症ケアの目標—職位, 雇用形態別による比較—	大庭輝・高宏, 豊島彩, 佐藤眞一	201406	日本認知症ケア学会誌 13 巻, 1 号, pp216- / 第 15 回日本認知症ケア学会大会
口頭発表	【公募シンポジウム】学習支援研究がひらく豊かな生涯—いかに高齢者の記憶支援を自立支援へとつなげるか—	企画代表・山本博樹, 指定討論・佐藤眞一	201409	日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	介護施設職員の認知症に関する知識の普及度	大庭輝・数井裕光・佐藤眞一	201409	日本老年行動科学会東京大会
口頭発表	【ラウンドテーブル】自己調節方略のライフコース(2)	岡林秀樹・竹村明子・佐藤眞一	201503	日本発達心理学会第 26 回大会
口頭発表	高齢視覚障がい者の施設生活への適応課程の検討	豊島彩・佐藤眞一・辻本耐	201503	
国際会議 (proc.あり)	Measuring Staff's End-of-Life Care Efficacy in Elderly Care Facilities in Japan.	Kubota, S. & Sato, S.	201411	The 67th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America.

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
国際会議 (proc.あり)	How to Improve Staff's End-of-Life Care Efficacy in Elderly Care Facilities in Japan.	Kubota, S. & Sato, S.	201411	The 67th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America.
国際会議 (proc.あり)	The Effects of Social Support from Older Adults Toward Their Children or Partners on Role Identities: A Longitudinal Investigation.	Toyoshima, A., Sato, S. & Nakahara, J.	201411	The 67th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America.
国際会議 (proc.あり)	Does Social Support from Older Parents Toward Their Children Boost Parental Identities?: A Longitudinal Investigation.	Toyoshima, A., Nakahara, J. & Sato, S.	201502	The 16th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology
解説・総説	老年心理学の最前線	佐藤眞一	201501	老年精神医学雑誌 26(1), 77-83. /
その他	高齢者の行動の謎	佐藤 眞一	201406	年金時代 43 巻, 7 号, pp13- / 社会保険研究所
その他	高齢者のこころを理解して社会参加のアプローチを	佐藤眞一, 祖父江逸郎	201410	Ageing & Health 23 巻, 3 号, pp6-11 / 長寿科学振興財団
その他	『老いのこころ—加齢と成熟の発達心理学』を上梓して	佐藤眞一	201411	書齋の窓 第 636 号, 77-80. / 有斐閣

所属学系	行動学系	氏名	権藤 恭之
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	20 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	2 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	7 名
	指導教員	4 名	0 名	留学生	1 名
	副指導教員	1 名	2 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	3 件	3 件	20 件	1 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Physical independence and mortality at the extreme limit of life span: supercentenarians study in Japan.	Arai Y, Inagaki H, Takayama M, Abe Y, Saito Y, Takebayashi T, Gondo Y, Hirose N.	201404	J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 69 巻,4 号,pp486-494 /
学術論文	Significance of occlusal force for dietary fibre and vitamin intakes in independently living 70-year-old Japanese: from SONIC Study.	Inomata C, Ikebe K, Kagawa R, Okubo H, Sasaki S, Okada T, Takeshita H, Tada S, Matsuda K, Kurushima Y, Kitamura M, Murakami S, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y.	201405	J Dent. 42 巻,5 号,pp556-564 /
学術論文	Examination of important life experiences of the oldest-old: cross-cultural comparisons of U.S. and Japanese centenarians.	da Rosa G, Martin P, Gondo Y, Hirose N, Ishioka Y, Poon LW; Georgia Centenarian Study.	201406	J Cross Cult Gerontol. 29 巻,2 号, pp109-130 /
学術論文	Disease-associated polymorphisms in 9p21 are not associated with extreme longevity.	Congrains A, Kamide K, Hirose N, Arai Y, Oguro R, Nakama C, Imaizumi Y, Kawai T, Kusunoki H, Yamamoto H, Onishi-Takeya M, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Akasaka H, Saitoh S, Miura T, Awata N, Kato N, Katsuya T, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H.	201409	Geriatr Gerontol Int.

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Association of periodontal status with occlusal force and food acceptability in 70-year-old adults: from SONIC Study.	Okada T, Ikebe K, Inomata C, Takeshita H, Uota M, Mihara Y, Matsuda K, Kitamura M, Murakami S, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y.	201412	J Oral Rehabil. 41 巻,12 号, pp912-919 /
学術論文	Association of personality traits with oral health-related quality of life independently of objective oral health status: a study of community-dwelling elderly Japanese.	Takeshita H, Ikebe K, Kagawa R, Okada T, Gondo Y, Nakagawa T, Ishioka Y, Inomata C, Tada S, Matsuda K, Kurushima Y, Enoki K, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y.	201503	J Dent. 43 巻,3 号,pp342-349 /

所属学系	行動学系	氏名	中川 威
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	7 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	0 件	3 件	2 件	1 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	高齢者のこころとからだ事典	中川 威	201409	中央法規 44-45
報告	100 歳以上高齢者の心理的発達に関する質的研究	中川 威	201410	ジェロントロジー研究報告 11 巻, pp90-97

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201411	樺山舞	第 23 回ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成	公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団

所属学系	行動学系	氏名	青野正二
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	18 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	1 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	6 名	2 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	視聴覚実験に基づく商業空間の環境評価	青野正二, 西田幸平	201501	日本音響学会騒音・振動研究会資料 N-2015-02, pp.1-9
口頭発表	街路環境における望ましさの要因構造について	青野正二, 乾将晃	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 p.1267

所属学系	行動学系	氏名	白井 伸之介
------	------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	19 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	0 件	1 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4
	指導教員	1 名	2 名	留学生	0 名
	副指導教員	3 名	4 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	2 件	6 件	13 件	0 件	2 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	看護業務における違反の心理的生起要因—看護学生, リスクマネジャーを対象に—	安達悠子・山口(中上)悦子・松本友一郎・白井伸之介	201407	応用心理学研究 40 巻,1 号, pp23-35
口頭発表	特別な呼吸法の事前実施が緊急事態時の行動を改善させる	上田真由子, 和田一成, 白井伸之介	201405	日本感情心理学会
口頭発表	回送・空車時におけるバス事故の危険性	森泉慎吾, 中井 宏, 白井伸之介	201406	日本交通心理学会第 79 回大会発表論文集 57-60.
口頭発表	高速道路走行中の車間距離に対する車種の影響	中井 宏, 白井伸之介	201406	日本交通心理学会第 79 回大会発表論文集 57-60.
口頭発表	ヴィジランス課題における会話の影響: 聴取・思考・発声に着目して	山田健太, 白井伸之介	201406	人間工学会第 54 回大会発表論文集 pp308-309
口頭発表	低リスク状況下におけるリスクテイキング	森泉慎吾, 白井伸之介	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集
口頭発表	エラー体験型教育の効果検証	森泉慎吾, 白井伸之介, 和田一成	201409	日本応用心理学会第 80 回大会発表論文集 pp26-26
口頭発表	操船者の霧中航行時の衝突回避判断 —右転か左転か—	瀧真輝, 白井伸之介	201409	日本応用心理学会第 80 回大会発表論文集 pp52-52
口頭発表	救急搬送データにおける 6 歳から 12 歳児童の事故の分析	岡真裕美, 安達悠子, 中井宏, 白井伸之介	201412	日本人間工学会中国四国支部・関西支部合同大会講演論文集 pp62-63
口頭発表	船舶運航シミュレータにおけるチェックリスト課題が覚醒水準に与える影響	小西宗, 瀧真輝, 白井伸之介, 山田健太, 藤本昌志, 廣野康平	201412	平成 26 年度日本人間工学会中国・四国支部, 関西支部合同大会論文集 pp48-49
口頭発表	小学校における安全教育プログラム「校内版ひなどり」の実践	中井 宏, 岡真裕美, 白井伸之介	201412	日本人間工学会平成 26 年度中国四国支部・関西支部合同大会論文集 pp140-141
口頭発表	ヴィジランス課題における会話の影響: 認知的負荷に着目して	山田健太, 白井伸之介	201412	平成 26 年度日本人間工学会中国・四国支部, 関西支部合同大会論文集 pp118-119

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	覚醒水準低下に対する会話の影響:ドライビングシミュレータを用いて	山田健太, 臼井伸之介	201412	平成 26 年度交通科学研究会学術研究発表会講演論文集 pp25-26
口頭発表	車間距離に及ぼす車種の影響	中井 宏, 臼井伸之介	201412	平成 26 年度交通科学研究会学術研究発表会講演論文集 pp15-16
国際会議 (proc.なし)	Trust in an approaching vehicle: Psychological processes during the estimation of time-to-contact at an intersection in Japan	Kinosada Yasunori, Usui Shinnosuke	201407	Program 361 / 28th International Congress of Applied Psychology
国際会議 (proc.なし)	Relationship between the tendency to take risks in daily life and traffic violations.	Shingo MORIIZUMI, Shinnosuke USUI, Hiroshi NAKAI	201407	28th International Congress of Applied Psychology
国際会議 (proc.なし)	Effects of safety education using human-error-inducing program software	Shinnosuke USUI & Kazushige WADA	201407	28th International Congress of Applied Psychology
国際会議 (proc.なし)	The effect of conversation on arousal level: Using vigilance task	Kenta YAMADA & Shinnosuke USUI	201407	28th International Congress of Applied Psychology
国際会議 (proc.なし)	Behavior in emergency situation before and after expiration of a time limit	Mayuko UEDA, Kazushige WADA, Shinnosuke USUI	201407	28th International Congress of Applied Psychology
解説・総説	ヒューマンエラーや規則違反はなぜ起こる? (1)	臼井伸之介	201409	危険物新聞 729 巻,pp4-5
解説・総説	ヒューマンエラーや規則違反はなぜ起こる? (2)	臼井伸之介	201410	危険物新聞 730 巻,pp2-3

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201406	上田真由子, 和田一成, 臼井伸之介	日本感情心理学会独創研究賞	日本感情心理学会
201406	上田真由子, 和田一成, 臼井伸之介	日本感情心理学会優秀研究賞	日本感情心理学会
201410	山田健太, 臼井伸之介	日本人間工学会優秀研究発表奨励賞	日本人間工学会
201412	山田健太, 臼井伸之介	日本人間工学会関西支部優秀発表賞	日本人間工学会関西支部
201412	山田健太, 臼井伸之介	一般社団法人交通科学研究会優秀発表賞	一般社団法人交通科学研究会

所属学系	行動学系	氏名	中井 宏
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	2 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	1 件	5 件	0 件	2 件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	バス乗務員の心理的ストレス反応の構造 —感情コントロール教育のために—	中井 宏, 小川和久	201410	心理学研究 85 巻,4 号,pp373-382
口頭発表	回送・空車時におけるバス事故の危険性	森泉慎吾, 中井 宏, 臼井伸之介	201406	日本交通心理学会第 79 回大会発表論文集 57-60.
口頭発表	高速道路走行中の車間距離に対する車種の影響	中井 宏, 臼井伸之介	201406	日本交通心理学会第 79 回大会発表論文集 57-60.
国際会議 (proc.なし)	Relationship between the tendency to take risks in daily life and traffic violations.	Shingo MORIIZUMI, Shinnosuke USUI, Hiroshi NAKAI	201407	28th International Congress of Applied Psychology
その他	自動車教習所の現状と課題	中井 宏	201409	交通科学 45 巻,1 号,pp1-2
その他	自動車教習所に関する文献リスト	中井 宏	201409	交通科学 45 巻,1 号,pp62-64

所属学系	行動学系	氏名	日野林俊彦
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	16 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	2 名	2 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	件	件	2 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
翻訳	青年期発達百科事典	日野林俊彦	201404	丸善出版 111-123
口頭発表	思春期女子に見られる乳幼児への関心	日野林俊彦, 清水真由子, 大西賢治, 金澤忠博, 赤井誠生, 南徹弘	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 pp1017-1017 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	思春期における性別受容と来潮の関わりー日本全国45, 665人の調査より	日野林俊彦, 清水(加藤)真由子, 金澤忠博, 南徹弘, 糸魚川直祐	201503	日本発達心理学会第26回大会発表論文集 / 日本発達心理学会第26回

所属学系	行動学系	氏名	金澤 忠博
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	17 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	1 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	2 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	3 件	2 件	8 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	思春期女子に見られる乳幼児への関心	日野林俊彦, 清水真由子, 大西賢治, 金澤忠博, 赤井誠生, 南徹弘	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 pp1017-1017 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	思春期における性別受容と来潮の関わりー日本全国45, 665人の調査より	日野林俊彦, 清水(加藤)真由子, 金澤忠博, 南徹弘, 糸魚川直祐	201503	日本発達心理学会第26回大会発表論文集 / 日本発達心理学会第26回

所属学系	行動学	氏名	清水 真由子
------	-----	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	3 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	0 件	0 件	3 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	思春期女子に見られる乳幼児への関心	日野林俊彦, 清水真由子, 大西賢治, 金澤忠博, 赤井誠生, 南徹弘	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 pp1017-1017 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	思春期における性別受容と来潮の関わりー日本全国45, 665人の調査より	日野林俊彦, 清水(加藤)真由子, 金澤忠博, 南徹弘, 糸魚川直祐	201503	日本発達心理学会第26回大会発表論文集 / 日本発達心理学会第26回

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201410	清水真由子	第 9 回大阪大学総長による表彰	大阪大学

所属学系	行動学系	氏名	志村 剛
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	23 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	1 件	1 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	0 名	4 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	6 件	0 件	8 件	0 件	1 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Delta-opioid receptor blockade in the ventral pallidum increases perceived palatability and consumption of saccharin solution in rats.	Inui T, Shimura T	201408	Behavioural Brain Reserch 269:20-27 /
学術論文	摂食抑制作用のあるペプチド YY はマウスにおける味覚嫌悪学習を生じさせない	山口恵里奈, 八十島安伸, 志村 剛	201412	日本味と匂学会誌 21 巻,3 号,pp319-322 / 日本味と匂学会編集委員会
学術論文	味覚関連行動におけるドーパミントランスポーター遺伝子変異の影響	西岡春奈, 山口恵里奈, 八十島安伸, 志村 剛	201412	日本味と匂学会誌 21 巻,3 号,pp315-318 / 日本味と匂学会編集委員会
学術論文	A mouse model for binge-like sucrose overconsumption: Contribution of enhanced motivation for sweetener consumption.	Yasoshima, Y., Shimura, T.	201501	Physiology & Behavior 138: 154-164. /
学術論文	The basolateral nucleus of the amygdala mediates caloric sugar preference over a non-caloric sweetener in mice	Y. Yasoshima, H. Yoshizawa, T. Shimura, T. Miyamoto	201502	Neuroscience 291 巻,pp203-215
口頭発表	おいしさの希求に関わる脳と体のメカニズム	八十島安伸, 山口恵里菜, 西岡春奈, 志村剛	201408	第 66 回日本生物工学会大会講演要旨集 / 第 66 回日本生物工学会大会 公益法人 日本生物工学会 公益法人 日本生物工学会
口頭発表	The dorsomedial hypothalamic nucleus is involved in palatable food entrainment to diurnally scheduled delivery of high-sucrose diet in ad libitum-fed mice	Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201409	第 37 回日本神経科学大会 Neuroscience2014

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	Altered glucostatic control of food intake in mice with daily intermittent access to sugar	Haruna Nishioka, Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201409	第 37 回日本神経科学大会
口頭発表	Lowered plasma peptide YY levels in mice showing binge-like sugar overconsumption	Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201409	第 37 回日本神経科学大会
口頭発表	Effect of intermittent sucrose intake for several weeks on central glucose-sensing system in mice.	Haruna Nishioka, Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201503	The Journal of Physiological Sciences 65 Supplement 1, S240 / 第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会 / 第 92 回日本生理学会大会 合同大会
口頭発表	Neuronal activation in midbrain regions after peripheral administration of peptide YY in mice: an effect of postingestive consequences	Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201503	The Journal of Physiological Sciences 65 Supplement 1, S253 / 第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会/第 92 回日本生理学会大会合同大会
国際会議 (proc.なし)	Effects of lesions of the insular cortex and gustatory thalamus on binge-like sugar overconsumption in mice	Yasoshima Y., Shimura T.	201407	SSIB 2014 Abstract Online (http://www.ssib.org/web/past_programs/SSIB_2014_Abstracts.pdf) / 22nd Annual meeting of the Society for the Study of Ingestive Behavior 2014 The Society for the Study of Ingestive Behavior
国際会議 (proc.なし)	Contribution of amygdala to selective learned preference for a nutritive sweetener in mice.	Takenori Miyamoto, Hikaru Yoshizawa, Lisa Ohkubo, Tsuyoshi Shimura and Yasunobu Yasoshima	201407	SSIB 2014 Abstract Online (http://www.ssib.org/web/past_programs/SSIB_2014_Abstracts.pdf) / 22nd Annual Meeting of the Society for the Study of Ingestive Behavior The Society for the Study of Ingestive Behavior
解説・総説	扁桃体と嗅覚・味覚	志村 剛	201406	Clinical Neuroscience 臨床神経科学 32, 6, 628-632 /

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201410	乾 賢, 志村 剛	日本味と匂学会 論文賞	日本味と匂学会

所属学系	行動学系	氏名	八十島 安伸
------	------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	19 科目	②学位論文審査	博士	修士
			主査	0 件
			副査	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	6 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	4 件	3 件	9 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	味覚関連行動におけるドーパミントランスporter遺伝子変異の影響	西岡春奈, 山口恵里奈, 八十島安伸, 志村 剛	201412	日本味と匂学会誌 21 巻,3 号, pp315-318 / 日本味と匂学会編集委員会
学術論文	摂食抑制作用のあるペプチド YY はマウスにおける味覚嫌悪学習を生じさせない	山口恵里奈, 八十島安伸, 志村 剛	201412	日本味と匂学会誌 21 巻,3 号, pp319-322 / 日本味と匂学会編集委員会
学術論文	A mouse model for binge-like sucrose overconsumption: Contribution of enhanced motivation for sweetener consumption.	Yasoshima, Y., Shimura, T.	201501	Physiology & Behavior 138: 154-164. /
学術論文	The basolateral nucleus of the amygdala mediates caloric sugar preference over a non-caloric sweetener in mice	Y. Yasoshima, H. Yoshizawa, T. Shimura, T. Miyamoto	201502	Neuroscience 291 巻,pp203-215 /
口頭発表	おいしさの希求に関わる脳と体のメカニズム	八十島安伸, 山口恵里菜, 西岡春奈, 志村 剛	201408	第 66 回日本生物工学会大会講演要旨集 / 第 66 回日本生物工学会大会 公益法人 日本生物工学会 公益法人 日本生物工学会
口頭発表	The dorsomedial hypothalamic nucleus is involved in palatable food entrainment to diurnally scheduled delivery of high-sucrose diet in ad libitum-fed mice	Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201409	第 37 回日本神経科学大会 Neuroscience2014
口頭発表	Altered glucostatic control of food intake in mice with daily intermittent access to sugar	Haruna Nishioka, Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201409	第 37 回日本神経科学大会
口頭発表	Lowered plasma peptide YY levels in mice showing binge-like sugar overconsumption	Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201409	第 37 回日本神経科学大会

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	Effect of intermittent sucrose intake for several weeks on central glucose-sensing system in mice.	Haruna Nishioka, Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201503	The Journal of Physiological Sciences 65 Supplement 1, S240 / 第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会 / 第 92 回日本生理学会大会 合同大会
口頭発表	Neural circuit contributing to control mechanism of body weight-dependent sucrose preference.	Yoko Asahina, Emiko Nishi, Hiroko Eda-Fujiwara, Ryohei Satoh, Yasunobu Yasoshima, Yousuke Tsuneoka, Takenori Miyamoto	201503	The Journal of Physiological Science 65 Supplement 1, S271 / 第 92 回日本生理学会大会
口頭発表	Neuronal activation in midbrain regions after peripheral administration of peptide YY in mice: an effect of postingestive consequences	Erina Yamaguchi, Yasunobu Yasoshima, Tsuyoshi Shimura	201503	The Journal of Physiological Sciences 65 Supplement 1, S253 / 第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会/第 92 回日本生理学会大会合同大会
国際会議 (proc.なし)	Effects of lesions of the insular cortex and gustatory thalamus on binge-like sugar overconsumption in mice	Yasoshima Y., Shimura T.	201407	SSIB 2014 Abstract Online (http://www.ssib.org/web/past_programs/SSIB_2014_Abstracts.pdf) / 22nd Annual meeting of the Society for the Study of Ingestive Behavior 2014 The Society for the Study of Ingestive Behavior
国際会議 (proc.なし)	Contribution of amygdala to selective learned preference for a nutritive sweetener in mice.	Takenori Miyamoto, Hikaru Yoshizawa, Lisa Ohkubo, Tsuyoshi Shimura and Yasunobu Yasoshima	201407	SSIB 2014 Abstract Online (http://www.ssib.org/web/past_programs/SSIB_2014_Abstracts.pdf) / 22nd Annual Meeting of the Society for the Study of Ingestive Behavior The Society for the Study of Ingestive Behavior

所属学系	行動学系	氏名	乾 賢
------	------	----	-----

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	1 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	2 件	2 件	3 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Delta-opioid receptor blockade in the ventral pallidum increases perceived palatability and consumption of saccharin solution in rats.	Inui T, Shimura T	201408	Behavioural Brain Reserch 269:20-27 /

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201410	乾 賢, 志村 剛	日本味と匂学会 論文賞	日本味と匂学会
201410	乾 賢	日本味と匂学会 研究奨励賞	日本味と匂学会

所属学系	行動学系	氏名	足立 浩平
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	15 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	3 件
			副査	1 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	1 名	5 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	0 名	研究生	0 名
				その他	3 名

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	1 件	7 件	12 件	0 件	0 件	0 件
	その他 0						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	Advances in latent variables (M. Carpita, et al. (Ed)), pp. 227-239, Sparse orthogonal factor analysis	Kohei Adachi & Nickolay T. Trendafilov	201412	Springer
学術論文	因子分析への行列集約アプローチ	足立浩平	201503	日本統計学会誌 44 巻, 2 号, 363-382 頁 /
口頭発表	Factor Analysis for Clustering Variables with EM Algorithm	Kohei Adachi & Nickolay T. Trendafilov	201405	日本計算機統計学会第 28 回大会講演論文集 159-162 / 日本計算機統計学会第 28 回大会
口頭発表	成分間のリンク数を制約した三相 Tucker2 分析	池本大樹・足立浩平	201405	日本計算機統計学会第 28 回大会論文集 151-154 / 日本計算機統計学会第 28 回大会
口頭発表	PARAFAC の拡張 — 成分リンク行列の置換を許す方法 —	山口奈津実・足立浩平	201409	日本行動計量学会第 42 回大会抄録集 pp62-65 / 日本行動計量学会第 42 回大会
口頭発表	各配列の零要素数を制約した Tucker2 主成分分析	池本大樹・足立浩平	201409	日本行動計量学会第 42 回大会抄録集 pp284-287 / 日本行動計量学会第 42 回大会
口頭発表	クラスタリングを伴う母数因子分析の交互反復解法	宇野光平・足立浩平	201409	日本行動計量学会第 42 回大会抄録集 pp362-365 / 日本行動計量学会第 42 回大会
口頭発表	ブロック行列分解による因子分析の諸性質	足立浩平	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 pp512-512 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	因子の不確定性を利用したクラスター化因子得点のプロクラステス同定	宇野光平・足立浩平	201409	2014 年度統計関連学会連合大会講演報告集 pp64-64 / 2014 年度統計関連学会連合大会
口頭発表	三相主成分分析の階層関係と新展開	足立浩平・中村裕子・池本大樹	201409	2014 年度統計関連学会連合大会講演報告集 pp113-113 / 2014 年度統計関連学会連合大会

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	Sparse Path Analysis: Computational Identification of Causality between Explanatory and Dependent Variables	Kohei Adachi	201411	日本計算機統計学会第28回シンポジウム講演論文集 pp223-226 / 日本計算機統計学会第28回シンポジウム 日本計算機統計学会
口頭発表	三相主成分分析の統合的理解に向けて	足立浩平	201502	北海道大学情報基盤センター 第30回大規模データ科学研究会
口頭発表	行列モデル因子分析における因子得点の不定性の解消と因子得点のクラスター化	宇野光平・足立浩平	201503	日本分類学会 第33回大会
口頭発表	因子得点のクラスターリングを伴う母数モデルの因子分析	宇野光平・足立浩平	201503	第9回日本統計学会春季集会
国際会議 (proc.あり)	Penalty-free sparse PCA	Kohei Adachi and Nickolay Trendafilov	201408	Proceedings of COMPSTAT 2014: 21st International Conference on Computational Statistics, ISBN: 978-2-8399-1347-8 pp. 197-203 /
国際会議 (proc.あり)	Sparse exploratory factor analysis	Sara Fontanella, Nicholay Trendafilov, and Kohei Adachi	201408	Proceedings of COMPSTAT 2014: 21st International Conference on Computational Statistics, ISBN: 978-2-8399-1347-8 pp. 281-288 /
国際会議 (proc.なし)	A Covariance-Based Algorithm for Matrix Factorization Factor Analysis Viewed as Higher Rank Approximation	Kohei Adachi	201407	The 3rd Institute of Mathematical Statistics Asa Pacific Rim Meeting 158 / The 3rd Institute of Mathematical Statistics Asa Pacific Rim Meeting
国際会議 (proc.なし)	ScTucker3: Three-Mode Sparse Principal Component Analysis Subject to the Constrained Cardinality of a Core Matrix	Hiroshi Ikemoto & Kohei Adachi	201407	The 3rd Institute of Mathematical Statistics Asa Pacific Rim Meeting 357 / The 3rd Institute of Mathematical Statistics Asa Pacific Rim Meeting
国際会議 (proc.なし)	Confirmatory Factor Analysis with Penalty-free Sparse Estimation	Kohei Adachi & Nickolay T. Trendafilov	201411	Kyoto International Conference on Modern Statistics in the 21st Century pp46-46 / Kyoto International Conference on Modern Statistics in the 21st Century
国際会議 (proc.なし)	Sparse SEM: Computational Identification of Inter-Factor Relations in Confirmatory Factor Analysis	Kohei Adachi & Nickolay T. Trendafilov	201412	Book of Abstracts, CFE-ERCIM pp101-101 / The 7th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics
国際会議 (proc.なし)	Fixed Factor Analysis with Clustering Observations	Kohei Uno & Kohei Adachi	201412	Book of Abstract, CFE-ERCIM 2014 pp178-178 / The 7th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics

所属学系	行動学系	氏名	宮本 友介
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	1 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	3 件	件	3 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	日本のロシア語学習者の動機づけについて—全国 6 言語アンケート調査結果から—	宮本友介, 横井幸子, 林田理恵	201409	『ロシア語教育研究』第 5 号 pp.1-11 / 日本ロシア語教育研究会
学術論文	日本のロシア語学習者の動機づけについて—期待・価値理論に基づく考察—	宮本 友介, 横井 幸子, 林田 利恵	201409	ロシア語教育研究 第 5 号 pp.13-20 / 日本ロシア語教育研究会
学術論文	情報コンピテンシーの育成に向けた情報リテラシー教育のあり方について	宮本 友介	201503	人間科学研究科紀要
口頭発表	全国6言語アンケート調査結果—最終報告—とロシア語教育の方向性	林田理恵, 佐山豪太, 宮本友介, 横井幸子	201411	日本ロシア文学会 第 64 回全国大会
口頭発表	全国6言語アンケート調査結果(最終報告)とロシア語教育の方向性	林田 理恵, 佐山 豪太, 宮本 友介, 横井 幸子	201412	日本ロシア語教育研究集会
口頭発表	学習環境とロシア語学習者の内発的動機づけの関係性	佐山 豪太, 宮本 友介	201503	pp14- / 言語教育エキスポ 2015

所属学系	行動学系	氏名	熊倉 博雄
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	13 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	0 件
			副査	1 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	1 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	3 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	0 件	7 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

所属学系	行動学系	氏名	中野 良彦
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	10 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	1 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	1 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	0 件	0 件	2 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	To know the primates locomotion - development, climbing strategy, laterality, and aging -	Nakano, Y.	201412	Anthropological Science 122(3):185 /
口頭発表	Pelvic morphology and locomotor adaptation in primates	Nakano, Y.	201412	Anthropological Science 122(3):199 /

所属学系	行動学系	氏名	日暮 泰男
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	0 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	0 件	0 件	2 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

所属学系	行動学系	氏名	中道 正之
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	11 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	3 名
	指導教員	1 名	4 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	1 名	研究生	0 名
				その他	特任研究員 1 名

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	9 件	1 件	5 件	0 件	2 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Twelve-year proximity relationships in a captive group of western lowland gorillas (<i>Gorilla gorilla gorilla</i>) at the San Diego Wild Animal Park, California, USA	Nakamichi, M., Onishi, K., Silldorf, A., Sexton, P.	201406	Zoo Biology 33 巻, pp173-183 / Wiley
学術論文	餌付け集団におけるニホンザルの死産の報告	勝野吏子, 鈴村崇文, 山田一憲, 中道正之	201406	霊長類研究 30 巻, pp163-172 /
学術論文	Female coexistence and competition in ringtailed lemurs: a review of a long-term study at Berenty, Madagascar	Takahata, Y., Koyama, N., Ichino, S., Miyamoto, N., Soma, T., Nakamichi, M.	201406	Primates and Cetaceans, (Yamagiwa, J, Karczmarski, L. eds.) pp129-147 /
学術論文	ソシオグラムを用いたランドシマウマの群れの社会関係の解析	屋野丸勢津子・中道正之	201408	動物園水族館雑誌 55 巻, 2 号, pp35-40 /
学術論文	Development in the usage and comprehension of greeting calls in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>)	Katsu N, Yamada K., and Nakamichi M.	201410	Ethology 120 巻, pp1024-1034 /
学術論文	Daytime mother-calf relationships in reticulated giraffes (<i>Giraffa camelopardalis reticulata</i>) at the Kyoto City Zoo	Nakamichi M., Murata C., Eto R., Takagi N., Yamada K.	201503	Zoo Biology 34 巻, / Wiley
解説・総説	「動物園」と研究する -動物園で研究資料を手に入れる方法-	畑瀬 淳・早川大輔・中道正之・楠田哲士・森角興起	201406	哺乳類科学 54 巻, 1 号, pp131-134 /

所属学系	行動学系	氏名	安達 悠子
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	2 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	1 件	4 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	看護業務における違反の心理的生起要因—看護学生, リスクマネジャーを対象に—	安達悠子・山口(中上)悦子・松本友一郎・臼井伸之介	201407	応用心理学研究 40 巻,1 号,pp23-35 /
口頭発表	病院看護師の医療行為に関するリスク認知	安達悠子	201406	日本人間工学会第 55 回大会講演集, pp.152-153. /
口頭発表	医療行為リスク認知に関する大学生—看護師間比較	安達悠子	201408	日本応用心理学会第 81 回大会発表論文集, p.85. /
口頭発表	リスク認知の観点から見た「似ている」医療行為—現職看護師を対象とした実施経験の有無による分析—	安達悠子	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集, p.73. /
口頭発表	救急搬送データにおける 6 歳から 12 歳児童の事故の分析	岡真裕美, 安達悠子, 中井宏, 臼井伸之介	201412	日本人間工学会中国四国支部・関西支部合同大会講演論文集 pp62-63 /
国際会議 (proc.なし)	Implicit and explicit attitudes Tto information and communication technology (ICT) Equipment: Differences between young and older adults in Japan.	Etsuko T. HARADA, Yuko ADACHI & Satoru SUTO.	201404	Cognitive Aging Conference 2014.

5-3. 社会学系

講座名等	教員氏名
社会環境学	友枝 敏雄
社会環境学	稲場 圭信
社会環境学	川端 亮
社会環境学	三谷 はるよ
社会環境学	吉川 徹
社会環境学	牟田 和恵
社会環境学	辻 大介
社会環境学	Scott NORTH
社会環境学	山中 浩司
社会環境学	斉藤 弥生
社会学系共通	高松 里江
社会学系共通	竹田 恵子

所属学系	社会学系	氏名	友枝敏雄
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	16 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	4 件
			副査	2 件	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	1 名	7 名	留学生	1 名
	副指導教員	5 名	8 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	1 件	件	件	件	1 件	2 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
書評	橋爪大三郎編『小室直樹の世界』	友枝敏雄	201409	社会学評論 65 巻,2 号,pp301-303 / 日本社会学会 日本社会学会編集委員会 日本社会学会
口頭発表	第二の近代における民主主義	友枝敏雄	201503	学術の動向 20 巻,3 号, / 『学術の動向』編集委員会 日本学術協力財団代

所属学系	社会学系	氏名	稲場 圭信
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	18 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	0 件	4 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	5 名
	指導教員	2 名	5 名	留学生	7 名
	副指導教員	2 名	8 名	研究生	4 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	2 件	2 件	3 件	3 件	2 件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	地域防災の資源としての宗教施設:宗教の違い・信仰の有無を超えて「災害救援」へ	稲場 圭信	201411	防災プラス Bosai Plus 101号,pp1-3 /
学術論文	寺院の社会貢献－災害時協力	稲場 圭信	201502	みんてら 6号,pp2-9 /
学術論文	宗教的利他主義	稲場圭信	201503	未来共生学 vol.2, pp.13-29. / 大阪大学未来戦略機構第五部門未来共生イノベータ博士課程プログラム
口頭発表	「震災復興と宗教」(テーマセッション「宗教とソーシャル・キャピタル」報告)	稲場 圭信,黒崎 浩行	201406	宗教と社会 20号,pp141-143 /
口頭発表	災害時における宗教と自治体の連携	稲場 圭信	201502	みやぎ宗連報 41号,pp11-16 /
口頭発表	「子どものための祈りと行動の日」記念シンポジウム報告書	ジョン・カー、稲場圭信、大河内秀人、比企敦子、藤本頼生、中井裕真、定松栄一ほか	201503	全 45 頁 / 一般財団法人ありがとうインターナショナル
口頭発表	基調発題:災害における宗教者の可能性	稲場 圭信	201503	「防災と」 / 国連防災世界会議パブリックフォーラム「防災と宗教」
国際会議 (proc.あり)	Religious Organizations and Government Preparing for a Disaster	Keishin INABA	201404	"The Globalization and Localization of Future and Religion Culture Studies" proceedings pp.A2-1-1-8 /
解説・総説	災害時における宗教施設の役割－ソーシャル・キャピタルの視点から	稲場 圭信	201503	サリュ 9 巻,pp12-13 /

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201503	稲場圭信	「第5回防災コンテスト」“気仙沼”震災伝承マップ、豊中国際救援マップ 優秀賞	独立行政法人防災科学技術研究所主催、内閣府・文部科学省後援

所属学系	社会学系	氏名	川端 亮
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	15 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	1 件
			副査	1 件	6 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	4 名	5 名	留学生	1 名
	副指導教員	7 名	9 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	1 件	件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	宗教の二面性－否定的イメージと人の幸せ	川端 亮	201503	『社会意識からみた日本－階層意識の新次元』有斐閣 198-201
学術論文	Acceptance of Religious Testimonies	Kawabata Akira	201503	Osaka Human Sciences 1 巻,pp141-157 /

所属学系	社会学系	氏名	三谷 はるよ
------	------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	1 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	4 件	件	1 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	社会意識からみた日本—階層意識の新次元	数土直紀	201503	有斐閣 202-225
学術論文	「市民活動参加者の脱階層化」命題の検証—1995 年と 2010 年の全国調査データによる時点間比較分析	三谷はるよ	201406	社会学評論 65 巻,1 号,pp32-46 /
学術論文	Influences of Resources and Subjective Dispositions on Formal and Informal Volunteering	Haruyo Mitani	201407	Voluntas: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations, International Society for Third-Sector Research Vol.25, No.4, pp.1022-1040 /
学術論文	『利他』への計量社会学的アプローチ	三谷はるよ	201503	未来共生学 第 2 号, pp.97-110 /
学術論文	一般交換としての震災ボランティア—『被災地のリレー』現象に関する実証分析	三谷はるよ	201503	理論と方法 第 57 号(印刷中) /

所属学系	社会学系	氏名	吉川 徹
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	15 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	0 件
			副査	2 件	4 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	5 名
	指導教員	2 名	1 名	留学生	1 名
	副指導教員	3 名	2 名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	件	1 件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	『現代日本の「社会の心」 計量社会意識論』	吉川徹	201406	有斐閣 1-248
著書	『「地元」の文化力 地域の未来のつくりかた』	荻谷剛彦, 吉川徹, 玄田有史, 渡辺靖, 神門善久, 小島多恵子, 熊倉純子, 狭間諒多朗	201409	河出書房 13-52, 171-193
著書	『社会意識からみた日本 階層意識の新次元』	数土直紀, 吉川徹 ほか	201503	有斐閣 229-255

所属学系	社会学系	氏名	牟田 和恵
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	14 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	4 件
			副査	0 件	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	12 名
	指導教員	7 名	5 名	留学生	3 名
	副指導教員	3 名	7 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	2 件	2 件	3 件	4	5 件	1

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	改訂版 ジェンダー・スタディーズ	牟田和恵	201503	大阪大学出版会
著書	大阪大学新世紀レクチャー 改訂版 ジェンダー・スタディーズー女性学・男性学を学ぶー	牟田 和恵編	201503	大阪大学出版
学術論文	愛と性の文化	牟田和恵	201408	『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社 pp209-223 / 井上俊 世界思想社
学術論文	ハラスメント問題が映し出す大学の病	牟田和恵	201410	現代思想 42 巻,14 号,pp152-167 / 青土社
書評	書評 沢山美果子『近代家族と子育て』	牟田和恵	201406	歴史学研究 919 号,pp33-37 / 歴史学研究会 青木書店
解説・総説	元から絶たなきやダメ! …DV 夫とハラッサーの改造法	牟田和恵	201502	信田さよ子『加害者は変わるか?』ちくま文庫 pp250-255 / 筑摩書房

所属学系	社会学系	氏名	辻 大介
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	13 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	2 件
			副査	1 件	5 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	16 名
	指導教員	3 名	8 名	留学生	7 名
	副指導教員	10 名	6 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	コミュニケーション論をつかむ	辻大介, 是永論, 関谷直也	201405	有斐閣

所属学系	社会学系	氏名	スコット・ノース
------	------	----	----------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	14 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	3 件
			副査	0 件	7 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	14 名
	指導教員	2 名	5 名	留学生	5 名
	副指導教員	5 名	13 名	研究生	2 名
				その他	学振 PD 2 人 Fulbright 研究員 1 人

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	3 件	1 件	5 件	1 件	件	3 件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	Globalized Fatherhood: Emergent Forms and Possibilities in the New Millennium. Ch. 2 Hiding Fatherhood in Corporate Japan.	Scott North	201410	Berghahn Books 53-80
著書	Going to Court to Change Japan: Social Movements and the Law in Contemporary Japan. Ch. 2: Karōshi Activism and Japanese Civil Society.	Scott North	201411	Michigan Monograph Series in Japanese Studies (Book 77). Center for Japanese Studies, The University of Michigan Press 45-73
著書	ジェンダースタディーズ II、第4章 ワーク・ライフ・コンフリクト問題: 男の「性/せい」	牟田和恵(編)	201503	大阪大学出版会 62-79
著書	大阪大学新世紀レクチャー 改訂版 ジェンダー・スタディーズ -女性学・男性学を学ぶ-	牟田 和恵編	201503	大阪大学出版
学術論文	Limited Regular Employment and the Reform of Japan's Division of Labor	Scott North	201404	The Asia-Pacific Journal Vol. 12, Issue 15, No. 1 /
口頭発表	Risks of Reforming Regular Employment in Japan	Scott North	201405	British Association for Japanese Studies Symposium
口頭発表	"What do I do now?" Post-Retirement Leisure in Japan	Scott North	201407	XVIII International Sociological Association World Congress of Sociology
国際会議 (proc.あり)	Protesting Worker Abuse Japanese-style	Scott North	201503	Alternative Futures and Popular Protest
国際会議 (proc.なし)	Compensation for Overwork Deaths (Karoshi) and Japan's Changing Employment Culture	Scott North	201408	American Sociological Association Annual Meeting

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
国際会議 (proc.なし)	Interpreting Japan's New Anti-Karoshi Law: Justice Cascade? Or Justice Delayed?	Scott North	201503	Association for Asian Studies Annual Meeting
解説・総説	Japan tackles the karoshi taboo	Scott North and Rika Morioka	201405	Asia Times / Asia Times Corp. Ltd.

所属学系	社会学系	氏名	山中 浩司
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	18 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	4 件
			副査	2 件	6 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	11 名
	指導教員	6 名	7 名	留学生	4 名
	副指導教員	7 名	13 名	研究生	2 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	件	1 件	2 件	件	件	件
	その他						

所属学系	社会学系	氏名	斉藤弥生
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	20 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	2 件	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	6 名
	指導教員	1 名	1 名	留学生	1 名
	副指導教員	1 名	4 名	研究生	0 名
				その他	なし

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	8 件	2 件	1 件	2 件	1 件	5 件	1 件
その他	翻訳 (スウェーデン語) 1 研究誌座談会 1 研究誌巻頭言 1						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「第9章 諸外国にみる高齢者福祉の新しい動向(2 節以外)」黒田研二・清水弥生・佐瀬美恵子編『高齢者福祉概説【第4版】』	斉藤 弥生	201404	明石書店 221-223, 231-250
著書	「第4章 「公民館活動」という名の地域福祉ガバナンス」上野谷加代子・松端克文・斉藤弥生編『対話と学び合いの地域福祉のすすめ: 松江市のコミュニティソーシャルワーク実践』	斉藤弥生	201406	全国コミュニティライフサポートセンター 150-163
著書	'Chapter3 Care Providers in Japan: Before and After the Long-term Care Insurance', Campbell, J.C., Edvardson, U., Midford, P., and Y. Saito (eds), ELDERCARE POLICIES IN JAPAN AND SCANDINAVIA: Aging Societies East and West	Yayoi Saito	201408	Palgrave Macmillan 51-69
著書	'Elderly Care Transition and Welfare State in Japan: "Traditional Care", "Modern Services", and "Late Modern Outputs"', Aulenbacher, B., Riegraf, B., and H. Theobald (eds), Soziale Welt, Sorge: Arbeit, Verhältnisse, Regime	Yayoi Saito	201408	Nomos 419-434
著書	「第 24 章高齢者介護の比較政治経済学」岡澤憲英編『北欧学のフロンティア』	斉藤 弥生	201501	ミネルヴァ書房 388-397
著書	「第3節 住民の代表性と参加方法」『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法』【第3版】	斉藤 弥生	201502	中央法規 185-194

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「第4章小地域における福祉ガバナンスを比較する:ピネット調査とは何か」上野谷加代子・斉藤弥生編『福祉ガバナンスとソーシャルワーク:ピネット調査による国際比較』	斉藤弥生	201502	ミネルヴァ書房 54-71, 88-116, 117-182
著書	「第10章 高齢者介護とジェンダー」牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ:女性学・男性学を学ぶ』	斉藤弥生	201503	大阪大学出版会 178-197
翻訳	「寄稿:歴史から見たヤルマール・プランティング」岡澤憲英編『北欧学のフロンティア』	Agne Gustafsson (翻訳:斉藤弥生)	201501	ミネルヴァ書房 399-494
学術論文	小地域における福祉ガバナンスを比較するーピネット調査の可能性と課題	斉藤 弥生	201408	月刊福祉 97巻,10号,pp20-23/ 全国社会福祉協議会
学術論文	日本と北欧諸国におけるホームヘルプの比較研究:「ケアの合理性」概念に焦点をあてて	斉藤弥生	201503	IDUN:北欧研究 21号,pp247-264 / 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻デンマーク語・スウェーデン語研究室
書評	一圓光彌・林宏昭編『社会保障制度改革を考える:財政および生活保護、医療、介護の観点から』(中央経済社、2014年7月刊)	斉藤弥生	201503	関西大学経済学会 64巻,3,4号,pp137-143 / 関西大学経済学会 関西大学経済学会
国際会議 (proc.あり)	Comparative Study of Elder Care Work in Japan and Sweden	Yayoi Saito, Nobu Ishiguro, Yoko Yoshioka, Momoko Sato	201409	12th Annual ESPAnet conference
解説・総説	V.ペストフと日本の協同組合医療・介護	斉藤弥生	201503	Review and Research 医療福祉生協連 理論誌 Vol.2, 2頁 / 日本医療福祉生活協同組合連合会
その他	高齢期を支える社会福祉サービス:(1)「要支援者」対象の介護サービス、(2)「互助」と介護サービス、(3)家族介護者を支援するサービス、(4)介護従事者の処遇改善を考える	斉藤弥生	201408	NHK テキスト『社会福祉セミナー』第27巻通巻90号、36-51頁 / NHK出版
その他	この人に聞く:住民参加・住民主体を実現する組織としての社会福祉協議会ー兵庫県社協とともに全国に発信してきたこと(野上文夫・元平安女学院大学教授)	斉藤弥生	201503	地域福祉研究 43号、153-163頁 / 日本生命済生会

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201503	斉藤弥生	損保ジャパン記念財団賞	損保ジャパン記念財団

所属学系	社会学系	氏名	高松 里江
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	1 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	1 件	1 件	0 件	1 件	0 件	0 件
	その他	なし					

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「物質主義はどこで生き残っているか—東アジアにおける階層帰属意識」, 太郎丸博編『東アジアの労働市場と社会階層』	チャン・チンフェン, ジ・キハ, 高松里江, キム・ヨンミ	201405	京都大学出版会
著書	"What Needs to Be Considered When Introducing a New Welfare System: Who Supports Basic Income in Japan?", Yannick Vanderborght and Toru Yamamori(eds.), Basic Income in Japan: Prospects for a Radical Idea in a Transforming Welfare State, Palgrave.	Takamatsu Rie, Tachibanaki Toshiaki	201410	Palgrave
学術論文	進路選択におけるジェンダー・トラック—男女間・女子内の分化に着目して	高松里江	201405	2013 年度課題公募型二次分析研究会 高校生の進路意識の形成とその母親の教育的態度との関連性研究成果報告書 pp75-106 /
学術論文	「見えにくいジェンダー」に対する女性労働研究の分析視角—性別職域分離研究の可能性	高松里江	201502	人間科学研究科紀要 41 巻, pp153-171 /
口頭発表	海外に憧れる高校生はだれか—ジェンダーの視点から	高松里江	201503	2014 年度二次分析研究報告会 /
国際会議 (proc.なし)	A Comparative Study of the Effects of English Language Proficiency on Wages in Japan and France	Rie TAKAMATSU	201407	ISA World Congress of Sociology

所属学系	社会学系	氏名	竹田 恵子
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	1 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	件	件	1 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	現代生殖技術の利用における不可視化するリスクー周辺の配慮と蓄積する科学知識の影響	竹田恵子	201405	関西社会学会、第 65 回関西社会学会大会

5-4. 人間学系

講座名等	教員氏名
基礎人間科学	中山 康雄
基礎人間科学	村上 靖彦
基礎人間科学	Wolfgang Schwentker
基礎人間科学	中川 敏
基礎人間科学	栗本 英世
基礎人間科学	森田 敦郎
基礎人間科学	白川 千尋

所属学系	人間学系	氏名	中山 康雄
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	24 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	1 件	4 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	1 名	5 名	留学生	0 名
	副指導教員	2 名	3 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	4 件	3 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他 1 件						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「四次元主義の存在論と認識論」 松田毅(編)『部分と全体の哲学 － 歴史と現在』	中山康雄	201411	春秋社 pp. 137-161
著書	"Speech Acts, Normative Systems, and Local Information Update," In: Y. I. Nakano, et al. (eds.) New Frontiers in Artificial Intelligence (JSAI-isAI 2013 Workshops, Kanagawa, Japan, Selected Papers from LENLS10, JURISIN2013, MiMI2013, AAA2013, DDS13)	Yasuo NAKAYAMA	201412	Springer pp. 98-114
学術論文	主体と時間と情報更新	中山康雄	201406	『アルケー』関西哲学会年報 22 巻,pp53-64 /
学術論文	明示的認識論理学と動的規範論 理学	中山康雄	201502	大阪大学大学院人間科学研究科紀 要 41 巻,pp119-135 /
学術論文	利他主義と共生に関する哲学的分 析	中山康雄	201503	未来共生学 2 巻,pp49-62 /
国際会議 (proc.あり)	Formal Analysis of Epistemic Modalities and Conditionals based on Logic of Belief Structures	Yasuo NAKAYAMA	201411	Proceedings of the Tenth International Workshop of Logic and Engineering of Natural Language Semantics 11 (LENLS 11 pp271-284 / The Eleventh International Workshop of Logic and Engineering of Natural Language Semantics 11 (LENLS 11)
国際会議 (proc.なし)	An Evolutionary Theory for Science and Technology	Yasuo NAKAYAMA	201408	The 2nd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia pp84-84 / The 2nd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
国際会議 (proc.なし)	Ontology and Epistemology of Four - dimensional Indexicalism	Yasuo NAKAYAMA	201409	Philosophy of Mental Time III
その他	2014 年度石本賞選考結果報告	中山 康雄	201412	科学哲学 47 卷,2 号,pp117-119 /

所属学系	人間学系	氏名	村上 靖彦
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	24 科目	②学位論文審査	博士	修士
			主査	0 件
			副査	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	3 名	3 名	留学生	1 名
	副指導教員	1 名	3 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	2 件	4 件	5 件	2 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	【共著】Soin et fin de la vie - Pour une éthique de l'accompagnement	F. Bastiani, M. Saint-Jean (ed.) Y. Murakami 192pp.	201404	Seli Arslan @@ (192pp)
著書	【共著】La portée pratique de la phénoménologie	yasuhiko murakami etc.	201411	P.I.E. Peter Lang 244-258
著書	【共著】Approches phénoménologiques de l'inconscient	yasuhiko murakami, et. al.	201501	OLMS
著書	『受容と抵抗－西洋科学の生命観と日本－』	安孫子信他	201502	法政大学出版局 185-209
学術論文	L'endroit a partir duquel quelqu'un m'appelle	yasuhiko murakami	201404	Perspective soignante 49, pp. 64-81
学術論文	精神看護における接遇についての一考察 看護師へのインタビューに基づく現象学的な質的研究	村上靖彦	201502	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 41 巻,pp43-60 /
口頭発表	Spatiality of the nursing in a psychiatric hospital in Japan	yasuhiko murakami	201406	Deleuze Conference in Asia 2
口頭発表	普通のコミュニケーションとナースのキャラクター～慢性期病棟の看護師とのグループインタビューの分析	村上靖彦	201409	楽学舎(大阪府の看護師主任研修修了者の集まり)
口頭発表	この世界に災害とか起きたり何もなくなったときに、私の手だけ	村上靖彦	201412	ケアの現象学的研究 方法と実践
口頭発表	看護師の実践、看護師の語り	村上靖彦	201412	山梨看護学会
口頭発表	精神科訪問看護についての現象学的考察	村上靖彦	201502	
国際会議 (proc.なし)	La spatialisation de la vie et les soins infirmiers dans un hôpital psychiatrique au Japon	yasuhiko murakami	201405	International Conference: Chora. Eléments pour une nouvelle phénoménologie de l'espace/

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
国際会議 (proc.なし)	Maldiney au Japon et la pratique de l'infirmière psychiatrique	yasuhiko murakami	201408	Colloque de Cerisey: À l'épreuve d'exister avec Henri Maldiney
国際会議 (proc.なし)	L'apport de la méthode lacanienne à la recherche qualitative phénoménologique	yasuhiko murakami	201503	Colloque Phénoménologie de l'inconscient
国際会議 (proc.なし)	L'interruption de l'imagination dans le soin des cancers de l'enfant.	yasuhiko murakami	201503	Soirée d'étude sur les soins palliatifs --Accompagner un enfant en fin de vie

所属学系	人間学系	氏名	W.シュヴェントカー
------	------	----	------------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	24 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	5 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	2 名	1 名	留学生	2 名
	副指導教員	0 名	5 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	3 件	2 件	2 件	1 件	1 件	7 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Japanische Kontroversen über Max Webers "Protestantische Ethik"	Max Weber Stiftung	201406	Max Weber in der Welt 125-143 /
学術論文	The Experiences of War and the Policies Toward History in Germany and Japan	The Journal of Studies of China's Resistance War Against Japan	201410	39 巻,3 号,pp6-14 /
書評	David Pilling, Japan - Eine Wirtschaftsmacht erfindet sich neu	Fachbuchjournal	201405	Fachbuchjournal 4 巻,pp76-77 /
書評	Angelika von Ortenberg, ema	Fachbuchjournal	201408	Japan 4 巻,pp70-71 /
書評	Berlin vor 100 Jahren	Review of "Berlin vor 100 Jahren. Die Berliner Skizzen und andere Schriften des japanischen Schriftstellers Iwaya Sueo"	201408	Fachbuchjournal 4 巻,pp70-71 /
書評	Christopher Gerteis/ Timothy S. George (eds.), Japan Since 1945	Neue Politische Literatur	201412	Abseits des politischen Mainstreams 59 巻,pp331-333 /

所属学系	人間学系	氏名	中川 敏
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	7 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	0 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	3 名	5 名	留学生	2 名
	副指導教員	3 名	5 名	研究生	0 名
				その他	0

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	異文化の見つけ方	中川 敏	201503	大阪大学人間科学研究科紀要 41 81--97 /

所属学系	人間学系	氏名	栗本 英世
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	19 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	7 名
	指導教員	5 名	0 名	留学生	3 名
	副指導教員	8 名	5 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	3 件	件	件	件	件	件	件
	その他						

所属学系	人間学系	氏名	森田 敦郎
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	9 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	2 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	3 名	2 名	留学生	0 名
	副指導教員	11 名	4 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	4 件	5 件	8 件	件	件	件
その他	国際ジャーナル特集（編者）2 編、英語論文 5 本が査読中						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	『バイオサイエンス時代から考える人間の未来』	檜垣立哉編	201503	勁草書房 27-52
学術論文	Ocean, travel, and equivocation: A response to Anne Salmond's "Tears of Rangī"	Morita, Atsuro	201412	HAU: Journal of Ethnographic Theory 4 巻,3 号,pp311-316 /
口頭発表	Comment on Keynote Speech by Marilyn Strathern.	Morita, Atsuro	201405	International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter-Congress (at Makuhari Messe, Chiba.)
口頭発表	Delta Ontologies	Morita, Atsuro and Casper Bruun Jensen	201405	International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter-Congress (at Makuhari Messe, Chiba.)
口頭発表	Delta Ontologies: Infrastructural Transformations in Southeast Asia.	Morita, Atsuro and Casper B. Jensen	201408	Faculty of Sociology and Anthropology Seminar, Thammasat University.
口頭発表	Science, Technology and Anthropology: (Post) Actor-Network Theory, Ontology and Multi-Species Ethnography."	Casper B. Jensen and Atsuro Morita	201408	Siam Association for Sociology and Anthropology Seminar, Chulalongkorn University.
口頭発表	Multispecies Infrastructure: Infrastructural Inversion and Involuntary Entanglement in the Chao Phraya Delta, Thailand.	Morita, Atsuro	201411	Reimagining the Asia Pacific; Constructing Asian Infrastructures Lecture, Munk Schol of International Studies, University of Toronto.
口頭発表	Anthropology and STS: Generative Interfaces and the Practice of Discipline Multiple	Morita, Atsuro	201412	American Anthropological Association Invited Roundtable.
口頭発表	Multispecies Infrastructure: Infrastructural Inversion and Involuntary Entanglement in the Chao Phraya Delta, Thailand	Morita, Atsuro	201412	Monday Colloquium, Department of Anthropology, University of Chicago.

所属学系	人間学系	氏名	白川 千尋
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	5 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	名	2 名	留学生	名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	3 件	件	件	件	2 件	件
その他	エッセイ 1 件、研究会発表 3 件						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	『ものどくらしの植物誌－東南アジア大陸部から』	落合雪野・白川千尋編	201405	臨川書店
著書	『テレビが映した「異文化」－メラネシアの人々の取り上げられ方』	白川千尋	201405	風響社
学術論文	「憩うモノから愛でるモノへ」	白川千尋	201405	落合雪野・白川千尋編, 『ものどくらしの植物誌－東南アジア大陸部から』, 臨川書店, pp.170-186
学術論文	「土着の蚊帳、国境を越える蚊帳」	白川千尋	201407	落合雪野編, 『国境と少数民族』, めこん, pp.199-227 /
解説・総説	「オセアニア先住民」	白川千尋	201407	国立民族学博物館編, 『世界民族百科事典』, 丸善, pp.294-295
解説・総説	「創られた伝統」	白川千尋	201407	国立民族学博物館編, 『世界民族百科事典』, 丸善, pp.56-57

5-5. 教育学系

講座名等	教員氏名
臨床教育学	藤川 信夫
臨床教育学	岡部 美香
臨床教育学	西森 年寿
臨床教育学	三宮 真智子
臨床教育学	藤岡 淳子
臨床教育学	老松 克博
臨床教育学	井村 修
臨床教育学	佐々木 淳
臨床教育学	野村 晴夫
臨床教育学	野坂 祐子
臨床教育学	大谷 和大
臨床教育学	管生 聖子
臨床教育学	藤野 陽生
教育環境学	近藤 博之
教育環境学	中澤 涉
教育環境学	小野田 正利
教育環境学	園山 大祐
教育環境学	木村 涼子
教育環境学	志水 宏吉
教育環境学	高田 一宏
教育環境学	伊佐 夏実
教育学系共通	知念 涉

所属学系	教育学系	氏名	藤川 信夫
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	29 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	3 名
	指導教員	8 名	6 名	留学生	4 名
	副指導教員	0 名	1 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	教育/福祉という舞台—動的ドラマ マトゥルギーの試み—	藤川信夫他	201409	大阪大学出版会 1-37, 205-224

所属学系	教育学系	氏名	岡部 美香
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	13 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	3 名	3 名	留学生	3 名
	副指導教員	6 名	3 名	研究生	2 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	2 件	2 件	1 件	1 件	1 件	1 件
その他	国際会議のうち 1 件は 3 つの発表と 1 つのディスカッションの司会とコーディネーター						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	マナーと作法の人間学	矢野智司、櫻井佳樹、 鷹野克己、岡部美香、 毛利猛	201409	東信堂
著書	教員養成を哲学する —教育哲学に何ができるか—	林泰成、山名淳、下司晶、 古屋恵太、岡部美香、 小林万里子、日暮トモ子、 藤井佳世	201409	東信堂 191-192 頁 195-199 頁 206-207 頁
学術論文	教育関係論・学び論から世代継承のメディア論へ —日韓の教育思想史研究は世代継承の実践知をどのように論じ、発信してきたか—	岡部美香・高橋舞・盧珠妍	201410	近代教育フォーラム 23 巻、pp249-257 / 教育思想史学会
学術論文	教育人間学にとって政治とは何か	岡部美香	201410	近代教育フォーラム 23 巻 57-66 頁 / 教育思想史学会
学術論文	利他としての無為 —共約不可能な他者とのかかわりに関する原理的考察	岡部美香	201503	未来共生学 2 巻、pp125-140 / 『未来共生学』編集委員会
書評	図書紹介「神宮輝夫・高田賢一・北本正章編著『子どもの世紀 —表現された子どもと家族像—』」	岡部美香	201406	教育学研究 81 巻、2 号、pp99-100 / 日本教育学会
国際会議 (proc.なし)	Brief Commentary on the paper “Learning Man’, His Two Concerns”	Mika OKABE	201407	Harvard-Yenching Institute Academic Workshop 2014
解説・総説	モノ語りを編む	岡部美香	201405	教育哲学研究 109 巻、pp99-101 / 教育哲学学会

所属学系	教育学系	氏名	西森 年寿
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	24 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	1 件	4 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	9 名
	指導教員	0 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	15 名	4 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	3 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	LiveScreenBoard: 創発的分業を促すパーソナルデスクトップ共有ツールの開発と評価	望月俊男,大浦弘樹,八重樫文,西森年寿,加藤浩	201412	日本教育工学会論文誌 38 巻,3 号,pp211-224 /
学術論文	MEET Video Explorer: 問題設定を支援する映像クリップ視聴プレイヤーの開発と評価	西森年寿,望月俊男,椿本弥生,山内祐平,久松慎一,中原淳,大浦弘樹	201412	日本教育工学会論文誌 38 巻,3 号,pp309-316 /
学術論文	読解リテラシーの実践を支援するソフトウェア eJournalPlus の開発	望月俊男,西森年寿,椿本弥生,大浦弘樹,佐藤朝美,渡部信一,ヨハンソンヘンリク,中原淳,山内祐平	201412	日本教育工学会論文誌 38 巻,3 号,pp241-254 /
学術論文	立体映像が授業評価や社会的存在感に与える影響の検討	松河秀哉,西森年寿	201412	日本教育工学会論文誌 38 巻,増刊号,pp25-28 /
学術論文	A Documentation Platform for Supporting and Assessing Collaborative Knowledge Building in Learning Computer Programming	Sun Zhi,Zaorski Spence,Nishimori Toshihisa,Maesako Takanori,Nakamura Masako,Imamura Rie	201503	Annals of Educational Studies Osaka University 20 号,pp77-89 /

所属学系	教育学系	氏名	三宮 真智子
------	------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	19 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	0 件	1 件
			副査	1 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	7 名	2 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	1 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	7 件	0 件	13 件	0 件	4 件	0 件
その他	1						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	対人コミュニケーションに活かすメタ認知	三宮真智子	201411	日本看護学教育学会誌 24 巻,2 号,pp79-87 /
学術論文	メタ認知的知識に働きかけて情報判断力を育てる学習教材の開発	三宮真智子, 久坂哲也	201412	日本教育工学会論文誌 38 巻 (suppl.) pp49-52 /
学術論文	女子大学生間のアドバイス場面における行動義務と心理的負担感の差異	真下知子,山村麻子,三宮真智子,坂香里	201412	日本教育工学会論文誌 38 巻 (Suppl.) pp85-88 /
学術論文	Cultural preferences in online learning environments: How Japanese and American university students evaluate 3-dimensional learning spaces?	Kazuhiro Ohtani, Paul Wallace, Yosuke Yamaguchi, Machiko Sannomiya	201503	大阪大学教育学年報 20 巻,pp27-37 /
学術論文	高校生における「自分の考えを書くこと」への問題意識	西森章子,三宮真智子	201503	大阪大学教育学年報 第 20 号 pp119-125 /
学術論文	中学生の科学的思考に対する認知に関する一考察	久坂哲也,三宮真智子	201503	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 41 巻,pp137-151 /
口頭発表	理科教育学研究におけるメタ認知の測定に関する一考察	久坂哲也,三宮真智子	201408	日本理科教育学会第 64 回全国大会 379 /
口頭発表	アイデア生成過程における系列位置と創造性(2) テキストマイニングを用いた分析	山口洋介,三宮真智子	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 886 /
口頭発表	ふきだし法と質問紙法でとらえたメタ認知の関係	久坂哲也,大谷和夫,古本温久,亀岡正睦,三宮真智子	201409	日本教育工学会第 30 回全国大会発表論文集 pp891-892 /
口頭発表	女子大学生間のアドバイス場面における言葉かけの収集	真下知子, 三宮真智子	201409	日本教育工学会第 30 回全国大会, P3a-1D-10
口頭発表	大学生における目標達成に向けての自己調整方略(Ⅰ) プランニングおよびその遂行に関する実態調査	山口洋介,澤山郁夫,三宮真智子	201409	日本教育工学会第 30 回全国大会講演論文集 pp609-610 /

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	大学生における目標達成に向けての自己調整方略(Ⅱ) -効力期待に影響を与える要因に着目した実験的検討-	澤山郁夫,山口洋介, 三宮真智子	201409	日本教育工学会第30回全国大会 講演論文集 pp607-608 /
口頭発表	大学生を対象とした「主張に対する根拠産出トレーニング」の検討	西森章子,三宮真智子	201409	日本教育工学会第30回全国大会 発表論文集 pp177-178 /
口頭発表	日々の学習を継続するために必要な要因 ~国立大学生の自由記述を基にした探索的検討~	澤山郁夫,三宮真智子	201409	日本心理学会第78回大会発表論 文集 787 /
口頭発表	eラーニング上の学習者同士の繋がる仕組みによって学習を回避してしまう者の特徴	澤山郁夫,三宮真智 子,寺澤孝文	201411	日本教育心理学会第56回総会発 表論文集 359 /
口頭発表	教育ディベートに観察される学習者の論理的思考 -工学系学生に必要とされる能力育成の観点より-	飯島睦美,三宮真智子	201411	日本教育心理学会第56回総会発 表論文集 786 /
口頭発表	女子大学生間の言葉かけに対する意図認知-アドバイス場面に着目して-	真下知子,三宮真智 子	201411	日本教育心理学会第56回総会, PA045
口頭発表	大学生における創造観とアイデア生成の関連性	山口洋介,三宮真智子	201411	日本教育心理学会第56回総会発 表論文集 199 /
解説・総説	ママのためのぶち心理学「子育て中の疎外感には」	三宮真智子	201406	Happy-Note 夏号 Vol.39, 83 / ミ キハウス子育て総研株式会社
解説・総説	ママのためのぶち心理学「子ども心をくすぐる言葉」	三宮真智子	201409	Happy-Note 秋号 Vol.40, 69 / ミ キハウス子育て総研株式会社
解説・総説	思考を深めるための動機づけとは	三宮真智子	201410	児童心理 68巻,15号,pp102-106 / 金子書房
解説・総説	ママのためのぶち心理学「子育て中の怒りとうまくつきあうために」	三宮真智子	201411	Happy-Note 冬号 Vol.41, 69 / ミ キハウス子育て総研株式会社
解説・総説	ママのためのぶち心理学「ほめことばは笑顔にのせて」	三宮真智子	201503	Happy-Note 春号 Vol.42,83 /
その他	学びのメカニズムを学べば人は上手に学習できる	三宮真智子	201411	RMSmessage 37巻,pp6-8 / リクル ートマネジメントソリューションズ

所属学系	教育学系	氏名	藤岡 淳子
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	10 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	5 名
	指導教員	5 名	3 名	留学生	2 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	6 件	件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用	藤岡淳子	201404	誠心書房

所属学系	教育学系	氏名	老松 克博
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	24 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	2 件
			副査	1 件	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	8 名	7 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	2 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	人格系と発達系—〈対話〉の深層心理学	老松克博	201404	講談社

所属学系	教育学系	氏名	井村 修
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	24 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	2 件
			副査	1 件	4 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	3 名
	指導教員	2 名	5 名	留学生	0 名
	副指導教員	10 名	15 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	0 件	1 件	件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	How Physicians Support Mothers of Children with Duchenne Muscular Dystrophy	Fujino, H., Saito, T., Matsumura, T., Shibata, S., Iwata, Y., Fujimura, H., Shinno. S. & Imura, O.	201501	Journal of Child Neurology /

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201407	井村修	大阪大学総長顕彰社会・国際貢献部門	大阪大学

所属学系	教育学系	氏名	佐々木 淳
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	28 科目	②学位論文審査	博士	修士
			主査	0 件
			副査	5 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	5 名
	指導教員	6 名	5 名	留学生	名
	副指導教員	1 名	5 名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	2 件	1 件	12 件	1 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Unpacking Cultural Variations in Social Anxiety and the Offensive-Type of Taijin Kyofusho Through the Indirect Effects of Intolerance of Uncertainty and Self-Construals	Zhou, B., Lacroix, F., Sasaki, J., Peng, Y., Wang, X., & Ryder, A. G.	201411	Journal of Cross-Cultural Psychology 45, 10, 1561-1578 /
口頭発表	自主シンポジウム「はじめて出会う認知行動療法の基礎・基本」の話題提供	佐々木淳	201408	日本心理臨床学会第 33 回秋季大会発表論文集 638 /
口頭発表	大会シンポジウム「情動知能と心のゆりの回復過程: 情動知能によるプロセスの違いと臨床への応用」の話題提供	照田恵理・佐々木淳	201408	日本心理臨床学会第 33 回秋季大会発表論文集 102 /
口頭発表	Pain Self-Efficacy Questionnaire 日本語版作成の試み	安達友紀・中江文・佐々木淳	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 364 /
口頭発表	メンタルヘルスの専門機関の利用と心理的問題の原因認知の変化	佐々木淳・中村菜々子・平井啓・岸あかね・谷向仁	201409	日本認知療法学会第 14 回大会発表論文集 105 /
口頭発表	メンタルヘルス受療行動の適正化に有用なメッセージ開発	平井啓・中村菜々子・佐々木淳・岸あかね・谷向仁	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 428 /
口頭発表	メンタルヘルス受療行動を実行した者の特徴: 受療を決めた理由の質的分類	中村菜々子・平井啓・佐々木淳・岸あかね・谷向仁	201409	日本認知療法学会第 14 回大会発表論文集 105 /
口頭発表	公募シンポジウム「精神病理学研究における心理学的アプローチ」の企画と司会	佐々木淳	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 /
口頭発表	対人恐怖症の加害観念の確信度を高める要因(1): 多次元アセスメントと相関分析による検討	橋本真希・佐々木淳	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 339 /

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	対人恐怖症の加害観念の確信度を高める要因(2): 偏相関分析による検討	佐々木淳・橋本真希	201409	日本心理学会第 78 回大会発表論文集 341 /
口頭発表	メンタルヘルス受療行動・提供機関に対するイメージとその変化に関する研究	平井啓・中村菜々子・佐々木淳・西村知子・岸あかね・山村麻予・谷向仁	201411	日本行動医学会第 21 回学術総会発表論文集 /
口頭発表	人工透析に関わる医療者が患者の心理的ケアについて必要とするスキルのニーズ調査	中村菜々子・三輪雅子・平井啓・谷向仁・佐々木淳・五十嵐友里・堀川直史	201411	生活習慣病認知行動療法研究会第 9 回大会発表論文集 /
口頭発表	認知・感情的要因が慢性疼痛患者の生活障害度, 生活の質に及ぼす影響	安達友紀・山田恵子・西上智彦・佐々木淳・柴田政彦	201502	日本慢性疼痛学会第 44 回大会大会論文集 /
国際会議 (proc.あり)	Social Anxiety in Canada, China, and Japan: Mediation by Intolerance of Uncertainty and Fear of Negative Evaluation	Zhao, Y., Zhou, B., Sasaki, J., Peng, Y., and Ryder, A. G.	201407	Poster presented at 22nd Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology (IACCP2014), Reims, France. /
国際会議 (proc.あり)	Improvement of the Self-Esteem of Patients with Bulimia Nervosa: An Eclectic Approach of Psychoeducation and a Self-Help Group	Takeda, T., Ikuno, T., and Sasaki, J.	201503	Poster presented at London Eating Disorders Conference 2015

所属学系	教育学系	氏名	野村 晴夫
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	20 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	7 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	2 名	3 名	留学生	名
	副指導教員	2 名	11 名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	3 件	1 件	4 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	心理学辞典	野村晴夫	201409	誠信書房
著書	臨床ナラティブアプローチ	森岡正芳(編著)	201503	ミネルヴァ書房 97-109
学術論文	語りからデータを得て実証する	野村晴夫	201408	臨床心理学増刊 6 pp66-72
学術論文	生活史面接後の「内なる語り」: 中高年の不随意的想起に着目した調査	野村晴夫	201408	心理臨床学研究 32 pp336-346
学術論文	ナラティブ・アプローチが照射する心理臨床の主観と客観: 協同構成される物語の方向性と共有可能性に着目して	野村晴夫	201409	人間性心理学研究 32 pp79-86

所属学系	教育学系	氏名	野坂 祐子
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	14 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	5 名
	指導教員	0 名	2 名	留学生	1 名
	副指導教員	5 名	0 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	2 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	誠信 心理学辞典 新版	下山晴彦	201409	誠信出版 740-742
著書	子どもの PTSD・診断と治療	友田明美, 杉山登志郎, 谷池雅子	201405	診断と治療社 61-67
学術論文	性犯罪被害児・者の実態とその課題—民間被害者支援団体の調査結果を踏まえて—	大岡由佳, 野坂祐子, 中島聡美, 岩切昌宏	201503	学校危機とメンタルケア 7 巻, pp55-68 /
解説・総説	非行少年への支援	野坂祐子	201410	そだちの科学 23 号, pp71-75 / 日本評論社

所属学系	教育学系	氏名	大谷 和大
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	4 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	2 件	件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Cultural preferences in online learning environments: How Japanese and American university students evaluate 3-dimensional learning spaces?	Kazuhiro Ohtani, Paul Wallace, Yosuke Yamaguchi, Machiko Sannomiya	201503	大阪大学教育学年報 20 巻,pp27-37 /
その他	自尊感情 —なぜ失敗を避けるのか—	大谷和大	201410	児童心理 10 月号臨時増刊号 pp.72-76 /

所属学系	教育学系	氏名	管生 聖子
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	6 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	件	3 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

所属学系	教育学系	氏名	藤野 陽生
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	3 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	5 件	1 件	7 件	1 件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	A functional polymorphism of the GTP cyclohydrolase 1 gene predicts attention performance	Yasuda Y, Hashimoto R, Ohi K, Yamamori H, Fujimoto M, Umeda-Yano S, Fujino H, Fukunaga M, Horiguchi M, Takeda M, Ichinose H.	201404	Neuroscience Letters 566, 46-49
学術論文	Performance on the Wechsler Adult Intelligence Scale-III in Japanese patients with schizophrenia	Fujino H, Sumiyoshi C, Sumiyoshi T, Yasuda Y, Yamamori H, Ohi K, Fujimoto M, Umeda-Yano S, Higuchi A, Hibi Y, Matsuura Y, Hashimoto R, Takeda M, Imura O.	201407	Psychiatry and Clinical Neurosciences 68: 534-541 /
学術論文	Glutamate networks implicate cognitive impairments in schizophrenia: Genome-wide association studies of 52 cognitive phenotypes	Ohi K, Hashimoto R, Ikeda M, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Umeda-Yano S, Fukunaga M, Fujino H, Watanabe Y, Iwase M, Kazui H, Iwata N, Weinberger DR, Takeda M	201412	Schizophrenia Bulletin in press (online first) /
学術論文	How physicians support mothers of children with Duchenne muscular dystrophy	Fujino H, Saito T, Matsumura T, Shibata S, Iwata Y, Fujimura H, Shinno S, Imura O	201501	Journal of Child Neurology in press (online first) /
学術論文	Standing postural instability in patients with schizophrenia: Relationships with psychiatric symptoms, anxiety, and the use of neuroleptic medications	Matsuura Y, Fujino H, Hashimoto R, Yasuda Y, Yamamori H, Ohi K, Takeda M, Imura O	201503	Gait & Posture in press (online first) /
学術論文	Postural sway and clinical characteristics in patients with psychotic disorders: A review	Fujino H, Imura O	201503	Psychiatric Quarterly in press (online first) /

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	DMD/BMD 患児における社会的認知に関する研究	松井美也子、藤野陽生、前田直子、船越愛絵、上野紘子、阪上由衣、齋藤利雄、松村剛、井村修	201405	能と発達 46 巻, 学術集會号, pp288-288 / 第 56 回日本小児神経学会学術集會
口頭発表	General and specific cognitive impairments in patients with schizophrenia	藤野陽生	201407	大阪大学国際共同研究促進プログラム: 超高齢期高齢者のサクセスフルエイジングを支援する介護福祉サービスの開発に向けた認知脳科学的・老年社会学的研究 研究セミナー, 大阪
口頭発表	筋ジストロフィーにおける心理的支援を考える	井村 修・阪上由衣・上野紘子・藤野陽生	201408	日本心理臨床学会第 33 回秋季大会, 横浜
口頭発表	精神病性障害における臨床症状と身体動揺	藤野陽生	201409	日本心理学会第 78 回大会, 京都
口頭発表	DMD/BMD の AD/HD 傾向評価法の予備的検討	藤野陽生, 井村 修, 阪上由衣, 上野紘子, 新垣ほのか, 榎本聖香, 松村 剛, 齋藤利雄, 藤村晴俊	201411	精神・神経疾患研究開発費『筋ジストロフィーのエビデンス創出を目的とした臨床研究と体制整備』班平成 26 年度班会議, 東京
口頭発表	DMD/BMD の AD/HD 傾向評価法の予備的検討	藤野陽生, 井村 修, 阪上由衣, 上野紘子, 新垣ほのか, 榎本聖香, 松村 剛, 齋藤利雄, 藤村晴俊	201501	筋ジストロフィーの CNS 障害研究会, 大阪

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201407	藤野陽生	大阪大学総長奨励賞	大阪大学

所属学系	教育学系	氏名	近藤 博之
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	9 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	1 件
			副査	0 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	1 名	1 名	留学生	1 名
	副指導教員	0 名	1 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	件	件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	教育の社会学	近藤博之・岩井八郎	201503	放送大学教育振興会 9-39 頁, 61-76 頁, 111-140 頁

所属学系	教育学系	氏名	中澤 渉
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	17 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	0 件	3 件
			副査	0 件	3 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	1 名
	副指導教員	0 名	1 名	研究生	0 名
				その他	1

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	3 件	2 件	1 件	1 件	1 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	なぜ日本の公教育費は少ないのか: 教育の公的役割を問いなおす	中澤 渉	201406	勁草書房
著書	「入試と選抜」「資格社会化と就職」 近藤博之・岩井八郎編『教育の社会学』	中澤渉	201503	放送大学教育振興会 157-182
学術論文	進路意識の母子間における一致と齟齬	中澤渉	201405	2013 年度課題公募型共同研究(二次分析研究会) 高校生の進路意識の形成とその母親の教育的態度との関連性 研究成果報告書(東京大学社会科学研究所) 52 巻,pp151-174 / 中澤渉・藤原翔
学術論文	Attitudes toward Education Expenditures in Japan: Comparisons with Social Security and Welfare Services Expenditures	Wataru NAKAZAWA	201503	Educational Studies in Japan: International Yearbook 9 巻,pp55-68 /
口頭発表	教育意識と社会階層—ESSM2013 データを用いた潜在クラス多項ロジットモデル	中澤渉	201409	日本教育社会学会第 66 回大会(松山大学)
国際会議 (proc.あり)	Impact of the Long Recession on Japanese Careers	Wataru Nakazawa	201407	XVIII ISA World Congress of Sociology
国際会議 (proc.あり)	Impact of High School Tracking on Educational Choices: A Quantitative Analysis of Japanese Data	Wataru NAKAZAWA	201503	Comparative and International Education Society, 59th Annual Conference / Comparative and International Education Society, 59th Annual Conference
報告	政党支持と政治意識の変動—個人間の差異と個人内変動の関係	中澤渉	201406	東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ 81 号,pp1-16 /

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
報告	Training and the Labor Market: A Comparison between Taiwan and Japan	NAKAZAWA, Wataru	201408	東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ 82号,pp1-23 / Institute of Social Sciences, University of Tokyo
解説・総説	日本人の意識から教育費の問題を考える	中澤 渉	201501	経済セミナー 682号,pp45-50 / 日本評論社

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201409	中澤 渉	日本教育社会学会奨励賞(論文の部)	日本教育社会学会
201411	中澤 渉	サントリー学芸賞(政治経済部門)	サントリー文化財団
201502	中澤 渉	大阪大学総長による表彰	大阪大学

所属学系	教育学系	氏名	小野田 正利
------	------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	19 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	3 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	6 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	62 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
報告	発達障害が疑われる保護者と学校のトラブル	小野田正利	201503	花園大学心理カウンセリングセンター、発達障害セミナー講演録 5号,pp9-16/

所属学系	教育学系	氏名	園山 大祐
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	7 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	2 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	7 名
	指導教員	1 名	2 名	留学生	0 名
	副指導教員	3 名	1 名	研究生	0 名
				その他	0

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	2 件	2 件	1 件	2 件	0 件	0 件
	その他						

所属学系	教育学系	氏名	木村 涼子
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	18 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	5 件
			副査	2 件	5 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	7 名
	指導教員	2 名	6 名	留学生	2 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	3 件	2 件	0 件	0 件	0 件	4 件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	주부의 탄생	기무라 료코	201404	소명출판
著書	21世紀スポーツ大事典	中村敏雄他編	201501	大修館書店 142-144
著書	歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史	久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編	201501	大月書店
著書	教育の社会学	近藤博之、岩井八郎、木村涼子他	201503	放送大学教育振興会 77-110
著書	大阪大学新世紀レクチャー 改訂版 ジェンダー・スタディーズ -女性学・男性学を学ぶ-	牟田 和恵編	201503	大阪大学出版
学術論文	婦人雑誌が描く1930年代から敗戦までの女性像	木村涼子	201406	『女も男も』2014年春・夏号 2014年春・夏号 pp45-54 / 労働教育センター 労働教育センター
学術論文	研究ノート 大衆文学とジェンダー研究のために「通俗小説」作家・加藤武雄作品ビブリオグラフィー	木村涼子	201503	大阪大学教育学年報 20 巻,pp127-138 / 大阪大学大学院人間科学研究科教育学系
解説・総説	女性像-戦前と戦後の女性像は断絶ではなく連続していた	木村涼子	201404	新発見!日本の歴史-戦前デモクラシーと「改造」の挑戦 41号,pp24-26 / 成田龍一 朝日新聞出版
解説・総説	Education and Training of Women	KIMURA Ryoko	201410	JWW NGO Report 2014 for Beijing+20 pp7-10 / Japan Women's Watch JAWW 事務局
解説・総説	女性の教育と訓練	木村涼子	201411	JAWW NGOレポート 北京+20に向けて pp4-4 / Japan Women's Watch JAWW 事務局

所属学系	教育学系	氏名	志水 宏吉
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	10 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	6 件
			副査	1 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	9 名
	指導教員	12 名	11 名	留学生	2 名
	副指導教員	2 名	2 名	研究生	2 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	4 件	1 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「つながり格差」が学力格差を生む	志水宏吉	201404	亜紀書房
著書	調査報告「学力格差」の実態	志水宏吉, 伊佐夏実, 知念渉, 芝野淳一	201406	岩波書店
著書	「一人も見捨てへん」教育	志水宏吉, 茨木市教育 委員会	201407	東洋館出版社
著書	日本の外国人学校 トランスナシ ヨナリティをめぐる教育政策の課題	志水宏吉, 中島智子, 鍛冶致 編	201407	明石書店
学術論文	『日本の外国人学校—トランスナシ ヨナリティをめぐる教育政策の課題』 志水宏吉, 中島智子, 鍛冶致編、 第 5 部第 2 章『西町文化』を発信 する—西町インターナショナルスク ール』	キム・ヴィクトリヤ(翻 訳: 藤田智博)	201407	

所属学系	教育学系	氏名	高田 一宏
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	10 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	1 件
			副査	1 件	6 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	9 名
	指導教員	名	1 名	留学生	名
	副指導教員	12 名	13 名	研究生	名
				その他	OUSSEP 1

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	3 件	1 件	2 件	1 件	1 件	1 件
	その他						

所属学系	教育学系	氏名	伊佐 夏実
------	------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	3 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	2 件	件	1 件	1 件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	調査報告「学力格差」の実態	志水宏吉, 伊佐夏実, 知念渉, 芝野淳一	201406	岩波書店
学術論文	理系科目における学力と意欲のジェンダー差	伊佐夏実, 知念渉	201406	日本労働研究雑誌 648号, pp84-93

所属学系	教育学系	氏名	知念 渉
------	------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	0 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	2 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	調査報告「学力格差」の実態	志水宏吉, 伊佐夏実, 知念渉, 芝野淳一	201406	
学術論文	理系科目における学力と意欲のジェンダー差	伊佐夏実, 知念渉	201406	日本労働研究雑誌 648号, pp84-93
学術論文	「貧困家族であること」のリアリティ: 記述の実践に着目して	知念渉	201410	家族社会学研究 26巻, 2号, pp102-113

5-6. グローバル人間学系

講座名等	教員氏名
人間開発学	中村 安秀
人間開発学	澤村 信英
人間開発学	岡田 千あき
人間開発学	千葉 泉
人間開発学	藤目 ゆき
人間開発学	小林 清治
人間開発学	三好 恵真子
地域研究	河森 正人
地域研究	鈴木 広和
地域研究	大谷 順子
地域研究	Zgusta Richard
地域研究	福岡 まどか
グローバル人間学系共通	川口 純
グローバル人間学系共通	田沼 幸子

所属学系	グローバル人間学系	氏名	中村 安秀
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	21 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	2 件	2 件
			副査	1 件	7 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	10 名	6 名	留学生	2 名
	副指導教員	3 名	10 名	研究生	2 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	2 件	3 件	0 件	0 件	5 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	ボランティア学はどう変わるのかー共生社会の未来をめざして. 新ボランティア学のすすめ(内海成治、中村安秀編集) 2014 年 12 月, 京都 ISBN	中村安秀	201412	昭和堂
著書	母子健康手帳の活用 乳幼児を診る: 根拠に基づく育児支援	中村安秀	201502	中山書店
学術論文	抗生物質を用いた自己治療と薬剤師の対応ーインドネシア首都圏における横断的研究	木村 暁, 中村安秀.	201406	国際保健医療 29 (2), 81-90
学術論文	Effect of a maternal and child health handbook on maternal knowledge and behaviour: a community-based controlled trial in rural Cambodia.,	Satoko Yanagisawa, Ayako Soyano, Hisato Igarashi, Midori Ura, Yasuhide Nakamura.	201501	Health Policy and Planning 2015:1-9
解説・総説	母子手帳を通じた国際協力	中村安秀	201406	高知県小児科医会報 27 : 19-29
解説・総説	医療通訳士の必要性和今後の課題	中村安秀	201407	国際人流 27 (7) : 4-11
解説・総説	医療通訳基礎研修ーことばと文化の壁を超えて.	中村安秀	201408	国際文化研修 85 : 6-11
解説・総説	なぜ、いま、医療通訳なのか	中村安秀	201412	保健の科学 56(12) : 796-799 /

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201503	中村安秀	第 43 回医療功労賞	讀賣新聞

所属学系	グローバル人間学系	氏名	澤村 信英
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	16 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	1 件	5 件
			副査	2 件	2 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	3 名	9 名	留学生	6 名
	副指導教員	5 名	3 名	研究生	1 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	3 件	1 件	5 件	0 件	3 件	2 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	教育援助 (アフリカ学辞典)	澤村信英	201406	昭和堂 336-339
著書	アフリカの生活世界と学校教育	澤村信英編	201412	明石書店 42303
学術論文	紛争後南スーダンのオルタナティブ教育—成人の学習意欲と社会背景—	澤村信英・山本香	201410	国際教育協力論集 17 巻,1 号,pp91-101
書評	書評 「新ボランティア学のすすめ」(昭和堂、内海成治・中村安秀編著)	澤村信英	201502	ボランティア学研究 15 号,pp157-158 / 国際ボランティア学会
口頭発表	ケニアの小学生の就学環境と学習理由—教師、両親、友人間の関係性に注目して—	澤村信英・野村理絵・佐久間茜・伊藤瑞規	201404	第 13 回アフリカ教育研究フォーラム (大阪大学)
口頭発表	The Impact of Primary School Experience on the Lives of Maasai Women in Kenya	Nobuhide Sawamura	201405	The 9th biennial conference of the Comparative Education Society of Asia
口頭発表	南スーダンの教育統計・政策と学校現場の実態—ジュバ市内の小学校の事例から—	澤村信英	201405	第 51 回日本アフリカ学会学術大会 (京都大学)
口頭発表	南スーダンにおける学校運営と教師集団—ジュバ市内の小学校の現実—	澤村信英	201407	第 50 回日本比較教育学会大会 (名古屋大学)
口頭発表	南スーダンにおける成人向けオルタナティブ教育の特質	澤村信英・山本香	201410	第 14 回アフリカ教育研究フォーラム (総合地球環境学研究所)
口頭発表	困難な状況にある子どもの教育 (企画セッション)	黒田一雄・日下部光・山本香・森下稔・吉田和浩・内海成治・澤村信英	201412	国際開発学会第 25 回全国大会 (千葉大学)
口頭発表	南スーダン紛争後の教授言語変更と初等教育への影響	澤村信英・山本香	201412	国際開発学会第 50 回全国大会 (千葉大学)
その他	Have We Really Supported and Encouraged Teachers in Africa?	Nobuhide Sawamura	201406	NORRAG NEWS 50 号,pp46-47

所属学系	グローバル人間学系	氏名	岡田 千あき
------	-----------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	16 科目	②学位論文審査	博士	修士	
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	0 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	1 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	3 件	10 件	2 件	3 件	0 件	5 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	サッカーボールひとつで社会を変える	岡田 千あき	201405	大阪大学出版会
著書	Sport, Social Development and Peace	Kevin Young, Chiaki Okada	201407	Emerald Group Publishing Limited
著書	スポーツと国際協力	齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文	201503	大修館書店
学術論文	From Genocide to Community Sport: A Cambodian Life History	Chiaki Okada, Kevin Young	201406	Sport, Social Development and Peace pp171-195 / Kevin Young, Chiaki Okada Emerald Group Publishing Limited
学術論文	Sport, Social Development and Peace: Acknowledging Potential, Respecting Balance	Kevin Young, Chiaki Okada	201406	Sport, Peace and Development pp9-29 / Kevin Young, Chiaki Okada Emerald Group Publishing Limited
学術論文	The Contribution of Sport to HIV/AIDS Awareness	Chiaki Okada	201406	Sport, Social Development and Peace pp87-102 / Kevin Young, Chiaki Okada Emerald Group Publishing Limited
学術論文	アフリカにおける開発と平和構築	岡田千あき	201411	現代スポーツ評論 31号, pp66-74 / 清水論 創文企画
学術論文	スポーツと国際協力	岡田千あき	201502	体育の科学 65巻, 2号, pp103-107 / 海老原修 杏林書院
学術論文	国際社会における「開発と平和のためのスポーツ」の 20 年	岡田千あき	201502	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 41巻, pp99-118 / 大阪大学大学院人間科学研究科
学術論文	HIV/AIDS とスポーツ	岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp150-166 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店
学術論文	NGO によるスポーツを通じた国際協力	鈴木直文、岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp62-88 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	ODAによるスポーツを通じた国際協力	岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp41-47 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店
学術論文	教育とスポーツⅡ	榎本伸悦、岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp115-129 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店
口頭発表	スポーツを通じた HIV/AIDS 啓発-ジンバブエの野球普及活動の事例から-	岡田千あき	201406	日本運動・スポーツ科学学会第 21 回大会
口頭発表	The Contribution of Sport to HIV/AIDS Awareness	Chiaki Okada, Kevin Young	201407	5th International Conference on Sport and Society
口頭発表	「スポーツを通じた開発」の発展に向けた論点整理	岡田千あき	201408	日本運動スポーツ科学学会国際健康スポーツ部会第 12 回大会
口頭発表	「開発と平和のためのスポーツ」研究の動向	岡田千あき	201503	日本スポーツ社会学会第 24 回大会
解説・総説	「スポーツと国際協力」の新しい時代へ	岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp220-224 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店
解説・総説	スポーツとは	Kevin Young, 岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp2-9 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店
解説・総説	スポーツを通じた国際協力とは	岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp16-22 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店
解説・総説	スポーツを通じた国際協力を進める際の留意点	岡田千あき	201503	スポーツと国際協力 pp225-227 / 齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文 大修館書店

所属学系	グローバル人間学系	氏名	千葉 泉
------	-----------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	14 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	1 件	4 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	3 名	3 名	留学生	名
	副指導教員	1 名	4 名	研究生	名
				その他	ミニ卒論指導学生 1名

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	1 件	件	件	件	1 件	件
その他	人間科学に関連する自作の楽曲 10 曲 (歌詞は日本語およびスペイン語) を収録した CD (1 枚)						

所属学系	グローバル人間学系	氏名	藤目 ゆき
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	15 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	3 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	3 名
	指導教員	2 名	3 名	留学生	2 名
	副指導教員	2 名	1 名	研究生	2 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	4 件	件	1 件	件	1 件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	平和研究入門	木戸衛一	201404	大阪大学出版会
著書	ジェンダー・スタディーズ	牟田和恵	201503	大阪大学出版会
学術論文	モニカ・フェルトンの初期原水爆禁止運動への貢献 - インドからの発信 ラジャゴバラチャリ 『人類は抗議する』の編集と出版について -	藤目ゆき	201404	アジア現代女性史 第9号 6-34 頁 /
学術論文	連合国占領軍の事故・犯罪による人身被害	藤目ゆき	201404	平和研究入門 40-54 / 木戸衛一 大阪大学出版会
その他	抗美援朝の中国を訪れて - 瀋陽・丹東への旅 -	藤目ゆき	201404	アジア現代女性史 第9号 82-87 頁 / アジア現代女性史研究会

所属学系	グローバル人間学系	氏名	小林 清治
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	20 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	6 名	2 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	ハーバース理論をリスク社会学的に応用する試み	小林清治	201408	批判的社会理論研究会第 26 回定例研究会論文集 42014 /
口頭発表	ハーバース理論をリスク社会学的に応用する試み	小林清治	201408	批判的社会理論研究会 第 26 回定例研究会 / 批判的社会理論研究会 第 26 回定例研究会
報告	人間環境宣言について	小林清治	201411	人間環境論公開セミナー「サステイナビリティ・サイエンスの実践的展開」人間環境論の世界によろこそ / 人間環境論公開セミナー「サステイナビリティ・サイエンスの実践的展開」人間環境論の世界によろこそ

所属学系	グローバル人間学系	氏名	三好 恵真子
------	-----------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	21 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	3 名
	指導教員	6 名	2 名	留学生	2 名
	副指導教員	2 名	3 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	6 件	10 件	5 件	9 件	1 件	1 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	'Practical research aimed at building risk communication over the safety, security and reliability of food in China' in "International Innovation 143, Forging ahead – the Asia-Pacific research revolution"	Miyoshi, E.	201406	RESEARCH MEDIA (EU)
著書	「ゴラン高原におけるドルーズ派コミュニティの生活空間とゆらぎ—境界に生きる人々—」『東アジア [生命健康圏] 構築に向けて (大気汚染と健康問題を考える日中国際会議)』	川口奈穂, 三好恵真子	201503	『東アジア“生命健康圏”構築に向けて—大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録』OUFC Booklet Vol.6
著書	「舟山群島新区海域における漁業資源の現状と海洋生態の保護・修復への展望—現行制度や生態系に対する漁民の認識や意見に関する分析」『東アジア [生命健康圏] 構築に向けて (大気汚染と健康問題を考える日中国際会議)』	胡毓瑜, 三好恵真子	201503	『東アジア“生命健康圏”構築に向けて—大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録』OUFC Booklet Vol.6
著書	「新エネルギー開発を活かした地域振興の実現に向けて—沖縄県宮古島の事例からの一考察」『東アジア [生命健康圏] 構築に向けて (大気汚染と健康問題を考える日中国際会議)』	松村悠子, 三好恵真子	201503	『東アジア“生命健康圏”構築に向けて—大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録』OUFC Booklet Vol.6
著書	「世界小規模金採掘の実態並びに水銀ゼロ (Zero Mercury) を目指す実践研究への展望」『東アジア [生命健康圏] 構築に向けて (大気汚染と健康問題を考える日中国際会議)』	姉崎正治, 三好恵真子	201503	『東アジア“生命健康圏”構築に向けて—大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録』OUFC Booklet Vol.6

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「不可視のリスクに起因する不安のコミュニケーションをどう捉えるべきかー静かなる時限爆弾‘アスペスト’に蝕まれた人びとの叫びー」(檜垣立哉編)『バイオサイエンス時代から考える人間の未来』	三好恵真子	201503	勁草書房
著書	「脈波におけるカオス解析から判別する精神疾患患者の特徴及び中国における心理問題への応用展開の可能性」『東アジア「生命健康圏」構築に向けて(大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録) OUGC Booklet Vol.6』	三好恵真子, 胡毓瑜 (大阪大学中国文化フォーラム(編))	201503	『東アジア“生命健康圏”構築に向けてー大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録』 OUGC Booklet Vol.6
著書	『バイオサイエンス時代から考える人間の未来』	檜垣立哉編	201503	勁草書房
学術論文	脈波におけるカオス解析から判別する鬱病患者の特徴と実践への展望ー中国における心理問題への応用展開の可能性ー	三好恵真子, 胡毓瑜	201408	第八回「現代中国と東アジアの新環境」国際学術シンポジウム」論文集(鄭州大学歴史学院・南開大学歴史学院・大阪大学中国文化フォーラム・編) in press /
学術論文	高速回転ミルによる使用済携帯電話の破碎と貴金属成分の濃集現象	姉崎正治, 山本高郁, 三好恵真子	201409	廃棄物資源循環学会誌 No.25, in press /
学術論文	社会システムにおける安全・安心・信頼ー中国の食を巡る問題の複雑性とルーマンのリスク概念による分析ー(1)	三好恵真子	201409	New Food Industry Vol.56, No.9 35-44 /
学術論文	社会システムにおける安全・安心・信頼ー中国の食を巡る問題の複雑性とルーマンのリスク概念による分析ー(2)	三好恵真子	201410	New Food Industry Vol.56, No.10, 81-87 /
学術論文	脈波脳波的非線形分析及び音楽刺激下脈波と脳波の変化	胡毓瑜 林娟 雄山真弓 三好恵真子	201410	応用心理学(中国学術雑誌) in press /
学術論文	ペルー第五代副王トレドのポトシ銀山開発事業における廃鉱石・鉱泥から資源回収ー歴史資料から読み解く現代社会への示唆	姉崎正治, 山本高郁, 三好恵真子	201412	廃棄物資源循環学会誌 No.25, Nol.6, 445-453 /
学術論文	ポトシ銀山の先取的な鉱業システムー歴史資料から再評価する第五代副王 Toledo の環境諸施策等に関する新たな知見ー	姉崎正治, 山本高郁, 三好恵真子	201412	日本鉱山史研究会 in press /
学術論文	各種の市販ブレード式高速回転ミルによる使用済携帯碎片と米粉の破碎過程の動力学的検討	姉崎正治, 山本高郁, 三好恵真子	201412	廃棄物資源循環学会誌 No.25, in press /
学術論文	脈波と脳波の非線形解析並びに音楽刺激による両者の挙動の比較検討	胡毓瑜, 三好恵真子	201502	大阪大学人間科学紀要 第41号, 61-77 /
学術論文	人の心理状態を可視化する試みー脈波におけるカオス解析から判別する精神疾患患者の特徴と実践における新たな展望ー	三好恵真子, 胡毓瑜, 林娟, 雄山真弓	201503	New Food Industry Vol.57, No.3, 43-52 /
学術論文	精米用スクリーンミルの分離機構を使用済携帯電話破碎に応用したブレード式高速回転ミルの同時分級・分離装置の開発	姉崎正治, 山本高郁, 三好恵真子	201503	廃棄物資源循環学会誌 No.25, in press /
学術論文	针对脉搏波诊断精神病患者心理特征的技术可靠性的分析以及向中国大力推介的可行性的展望	胡 毓瑜, 雄山真弓, 三好恵真子	201503	大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー 2015-2, 1-14 /
口頭発表	ゴラン高原におけるドルーズ派教徒の生活空間ー境界に生きる人々ー	川口奈穂, 三好恵真子	201405	日本生活学会 第41回大会 / 日本生活学会 第41回大会
口頭発表	ジョン・ラスキンの受容能力概念について	橋高彫斗, 三好恵真子	201405	日本生活学会 第41回大会 / 日本生活学会 第41回大会

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	ベトナム南部の地方都市における幼稚園児の生活習慣—3歳児の生活習慣と肥満に関する調査：2011年と2013年の比較—	由本優子, 三好恵真子	201405	日本生活学会 第41回大会 / 日本生活学会 第41回大会
口頭発表	脈波のデータから分析したうつ病患者の特徴と実践への展望	胡毓瑜, 林娟, 雄山真弓, 三好恵真子	201405	レオロジー学会第41回年会 / レオロジー学会第41回年会
口頭発表	離島におけるエネルギー開発の現状と今後の展望—独立電力連系の大規模離島における事例検討から—	松村悠子, 三好恵真子	201405	日本生活学会 第41回大会 / 日本生活学会 第41回大会
口頭発表	浙江省舟山新区海域における漁業資源の現状と海洋生態の保護・修復への展望—漁民の視点からみる現行政策・制度の合理性, 効率性および実行—	胡毓瑜, 三好恵真子	201405	日本生活学会 第41回大会 / 日本生活学会 第41回大会
口頭発表	離島における風力発電事業の導入事例から分析する課題と展望	松村悠子, 三好恵真子	201409	環境科学会2014年会 / 環境科学会2014年会
口頭発表	脈波と脳波の非線形解析並びに音楽刺激による両者の挙動の比較検討	胡毓瑜, 林娟, 雄山真弓, 三好恵真子	201410	レオロジー学会第62回討論会 / レオロジー学会第62回討論会
国際会議 (proc.あり)	Identifying Characteristic Physiological Patterns of Mentally Disease Patients using Analysis of Plethysmograms, and its Applications: Possibility of the applied development as the correspondence method to the mental problem in China	Miyoshi, E.	201408	The Eighth International Symposium: Social Change of Contemporary China and New Challenge of East Asia / The Eighth International Symposium: Social Change of Contemporary China and New Challenge of East Asia
国際会議 (proc.あり)	ゴラン高原におけるドルーズ派コミュニティの生活空間とゆらぎ—境界に生きる人々—	川口奈穂, 三好恵真子	201410	東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議 / 東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議
国際会議 (proc.あり)	舟山群島新区海域における漁業資源の現状と海洋生態の保護・修復への展望—漁民の現行制度・生態に対する認識と意見に関する分析—	胡毓瑜, 三好恵真子	201410	「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」 / 「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」
国際会議 (proc.あり)	新エネルギー開発を活かした地域振興の実現に向けて—沖縄県宮古島の事例からの一考察	松村悠子, 三好恵真子	201410	「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」 / 「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」
国際会議 (proc.あり)	世界の小規模金採掘 (ASGM) の実態と Zero Mercury 化に向けての実践研究	姉崎正治, 三好恵真子, 山本高郁	201410	「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」 / 「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」
国際会議 (proc.あり)	脈波におけるカオス解析から判別する精神疾患患者の特徴及び中国における心理問題への応用展開の可能性	胡毓瑜, 三好恵真子	201410	「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」 / 「東アジア“生命健康圏”構築に向けて: 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」
報告	環境: 人間の安全保障と持続的発展	三好恵真子	201503	未来研究イニシアティブ「21世紀の課題群と中国」 / 未来研究イニシアティブ「21世紀の課題群と中国」
解説・総説	グローバル人間学の7年間の軌跡—可能性を伸ばす教育研究—	三好恵真子	201502	グローバル人間学紀要 Vol.7, 5-69

所属学系	グローバル人間学系	氏名	河森 正人
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	24 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	1 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	2 名
	指導教員	0 名	2 名	留学生	0 名
	副指導教員	4 名	4 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	「第 5 章 タイの社会保障」増田雅暢、金貞任編『アジアの社会保障』	河森正人	201503	法律文化社
学術論文	「タイ大洪水と社会保障」	河森正人	201410	『海外社会保障研究』 pp15-23

所属学系	グローバル人間学系	氏名	鈴木 広和
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	20 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	1 件
			副査	0 件	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	1 名	1 名	留学生	0 名
	副指導教員	1 名	3 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	件	件	件	1 件	件	件
	その他	翻訳 1 件					

所属学系	グローバル人間学系	氏名	大谷 順子
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	9 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	1 名
	指導教員	2 名	2 名	留学生	10 名
	副指導教員	1 名	名	研究生	6 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	4 件	6 件	2 件	2 件	4 件	件	1 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	"Human Security and Natural Disasters: Applying Human Security's Nine Scopes to the 2011 Great East Japan Earthquake" In: Sociology in the Post-Disaster Society (pp.95-114)	Junko Otani	201406	「震災情報連絡会」 科研報告書 Sociology in the Post-Disaster Society: "Reconstruction from the Great East Japan Earthquake - The Road to Overcome the Earthquake, Tsunami, and Nuclear Disaster"-
著書	Ageing Society and Post-Disaster Community Security,(Ch.8) IN:Bacon, P.&, Hobson, C. (eds.), "Human Security and Japan's Triple Disasters: Responding to the 2011 earthquake, tsunami and Fukushima nuclear crisis", pp.127-140.	Junko Otani	201406	Routledge Humanitarian Studies Series, Routledge
著書	「医療・保健—ソ連崩壊後の健康悪化とプライマリー・ヘルス・ケア」(Ⅲ 生活・社会、第 33 章) 『カザフスタンを知るための 60 章』 藤本透子・宇山智彦 (編集)	大谷順子	201502	明石書店
学術論文	「質的アプローチを用いた研究手法—健康教育分野への適用—」	大谷順子	201405	『日本健康教育学会』 誌 22 巻,2 号,pp1-8 /
学術論文	「四川大地震における中国社会的復興対策の特徴と課題」	大谷順子	201406	『海外社会保障研究』 国立社会保障人口問題研究所 Summer 2014 第 187 号 4-19 頁 / 国立社会保障人口問題研究所
学術論文	「カンタベリー地震の事例に見るニュージーランドの地震保険と被災地住宅の現状分析」	大谷順子	201411	『日本災害復興学会論文集』 No.6, pp.9-22. / 日本災害復興学会

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
書評	Book Review, "Japan copes with Calamity: Ethnographies of the Earthquake, Tsunami and Nuclear Disaster of March 2011", edited by Tom Gill, Brigitte Steger and David H. Slater (Peter Lang 2013).	Junko Otani	201412	Asian Anthropology (Chinese University of Hong Kong) 13 卷, 2 号, / Official publication of the Department of Anthropology, The Chinese University of Hong Kong Taylor & Francis
口頭発表	Social consequences of Canterbury Earthquakes in 2010-2011 in New Zealand	Junko Otani	201411	The 10th APRU (Association of Pacific Rim Universities) Research Symposium on multi-hazards around the Pacific Rim, Universidad de Chile / The 10th APRU (Association of Pacific Rim Universities) Research Symposium on multi-hazards around the Pacific Rim, Universidad de Chile

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201407	大谷順子	大阪大学総長による表彰	大阪大学総長

所属学系	グローバル人間学系	氏名	Richard Zgusta
------	-----------	----	----------------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	4 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	1 件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	名
	副指導教員	1 名	1 名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	件	件	件	件	件	件
	その他						

所属学系	グローバル人間学系	氏名	福岡 まどか
------	-----------	----	--------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	25 科目	②学位論文審査	博士	修士
			主査	件
			副査	1 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	4 名
	指導教員	名	2 名	留学生	名
	副指導教員	1 名	2 名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	3 件	1 件	1 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
著書	性を越えるダンサー ディディ・ニニ・トウオ	福岡まどか	201405	めこん
著書	『バイオサイエンス時代から考える人間の未来』	檜垣立哉編	201503	勁草書房
学術論文	Cross gender attempts by Indonesian female-impersonator dancer Didik Nini Thowok.	Madoka FUKUOKA	201408	Wacana Seni Journal of Arts Discourse vol. 14 / Universiti Sains Malaysia
学術論文	Cross gender attempts by Indonesian female-impersonator dancer Didik Nini Thowok.	Madoka FUKUOKA	201408	Wacana Seni Journal of Arts Discourse vol. 13 pp57-83 / Universiti Sains Malaysia
学術論文	A study of femininity and masculinity: Gender and sexuality in Indonesian popular culture	Madokd Fukuoka	201503	Osaka Human Sciences 1 巻,pp1-21
学術論文	A study of femininity and masculinity: Gender and sexuality in Indonesian popular culture	Madoka Fukuoka	201503	Osaka Human Sciences 1 巻,pp95-115
国際会議 (proc.あり)	Research report: Gong production in Yogyakarta, Indonesia	Madoka Fukuoka	201503	Proceedings of International Symposium Audiovisual Ethnography of Gongs in Southeast Asia pp59-65 / Audiovisual Ethnography of Gongs in Southeast Asia National Museum of Ethnology
国際会議 (proc.なし)	Preservation and succession of Japanese traditional performing art forms	Madoka Fukuoka	201412	/ REBORN International seminar of Cross-gender
その他	芸術表現における民族的アイデンティティを考える	福岡まどか	201503	民博通信 148 号 pp20-21 / 国立民族学博物館『民博通信』編集部

所属学系	グローバル人間学系	氏名	川口 純
------	-----------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	0 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	0

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	3 件	2 件	0 件	1 件	0 件	0 件
	その他						

所属学系	グローバル人間学系	氏名	田沼 幸子
------	-----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	2科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	件	1 件	件	件	件	1 件
	その他						

5-7. 学系外

講座名等	教員氏名
附属比較行動実験施設	山田 一憲
国際交流室	上田 博司
学生支援室	前馬 優
学部英語コース 人間科学コース特任教員	Lam Laiming
学部英語コース 人間科学コース特任教員	安元 佐織
学部英語コース 人間科学コース特任教員	Kim Viktoriya
認知脳システム学に関する研究	小山 虎
超高齢期高齢者のサクセスフル エイジングを支援する介護福祉 サービスの開発に向けた認知脳 科学的・老年社会学的研究	源 健宏

所属学系	附属比較行動実験施設	氏名	山田 一憲
------	------------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	15 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	3 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	1 名
	副指導教員	1 名	7 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	5 件	3 件	15 件	0 件	1 件	0 件
	その他 1 件						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	Maternal responses to a 1-year-old male offspring with severe injury in a free-ranging group of Japanese macaques	M. UENO, K. YAMADA, & M. NAKAMICHI	201406	Primate Research 30: 157-162 /
学術論文	餌付け集団におけるニホンザルの死産の報告	勝 野 吏 子・鈴 村 崇 文・山 田 一 憲・中 道 正 之	201406	霊長類研究 30: 163-172 /
学術論文	Development in the usage and comprehension of greeting calls in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>)	N. KATSU, K. YAMADA, & M. NAKAMICHI	201410	Ethology 120: 1024-1034 /
学術論文	霊長類における毛づくろいと利他行動	山田一憲	201503	未来共生学 2: 63-82 /
学術論文	Daytime mother-calf relationships in reticulated giraffes (<i>Giraffa camelopardalis reticulata</i>) at the Kyoto City Zoo	M. NAKAMICHI, C. MURATA, R. ETO, N. TAKAGI, & K. YAMADA	201503	Zoo Biology in press /
口頭発表	社会行動に基づいた飼育アピニニアコロプスの妊娠推定	河野穂夏・山田一憲・中道正之	201406	第 14 回ニホンザル研究セミナー /
口頭発表	infant handling がもたらす適応度上の不利益	山田一憲	201407	第 30 回日本霊長類学会大会 自由集会 /
口頭発表	淡路島ニホンザル集団で観察された稀な行動	山田一憲	201407	第 30 回日本霊長類学会大会 /
口頭発表	勝山ニホンザル集団における親密な社会関係が毛づくろい後のストレス減少に及ぼす影響	上野将敬・山田一憲・中道正之	201407	第 30 回日本霊長類学会大会 /
口頭発表	ニホンザルにおける敵対的交渉後場面の親和的交渉に伴う音声行動	勝 野 吏 子・山 田 一 憲・中 道 正 之	201407	第 30 回日本霊長類学会大会 /

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
口頭発表	飼育アビシニアコロブス集団におけるメスの繁殖状態の推定と子の発達	河野穂夏・山田一憲・中道正之	201407	第30回日本霊長類学会大会
口頭発表	Effects of conflicts and combatant status on post-conflict greeting call usage in Japanese macaques	N. KATSU, K. YAMADA, & M. NAKAMICHI	201407	日本動物心理学会第74回大会
口頭発表	Stress reduction after giving grooming in Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>)	M. UENO, K. YAMADA, and M. NAKAMICHI	201407	日本動物心理学会第74回大会
口頭発表	霊長類の社会関係	山田一憲	201408	沖縄シンポジウム「頭足類学を興す」
口頭発表	霊長類の利他行動	山田一憲	201408	平成26年度ヒューマンサイエンスプロジェクト「利他主義の人間科学の創生に向けて」第2回研究会
口頭発表	Development of usage and response to vocalizations mediating social interactions in Japanese macaques	N. KATSU, K. YAMADA, & M. NAKAMICHI	201408	The 25th congress of the International Primatological Society /
口頭発表	ニホンザルが示す寛容性の地域間変異と遺伝的多型	山田一憲	201409	日本心理学会第78回大会公募シンポジウム「向社会性を多角的な視点でとらえる—遺伝子・神経ホルモン・神経システム・行動に着目して—」
口頭発表	ニホンザルにおける社会性の個体差に影響する遺伝子	大西賢治・山田一憲・中道正之・井上英治・齋藤慈子・長谷川寿一・井上・村山美穂	201409	日本哺乳類学会 2014 年度大会 /
口頭発表	ニホンザルにおける寛容性に関わる候補遺伝子の個体群間比較	井上・村山美穂・山田一憲・井上英治・大西賢治・栗原洋介・早川祥子・風張喜子・中川尚史	201409	日本哺乳類学会 2014 年度大会 /
口頭発表	新展示舎への引っ越しがゴリラの行動と来園者の印象に与える影響	濱田千絵・中道正之・山田一憲	201411	SAGA 17 /
口頭発表	キリンのメスの繁殖戦略について	川北安奈・山田一憲・中道正之	201411	SAGA 17 /
口頭発表	オキシトシン受容体遺伝子の多型がニホンザルの社会性の個体差に与える影響	大西賢治・山田一憲・中道正之・井上英治・齋藤慈子・長谷川寿一・井上・村山美穂	201501	「共感性の進化・神経基盤」第2回領域会議 /
口頭発表	キリンの2歳齢の子が母と離れていたときの行動	川北安奈・山田一憲・中道正之	201503	動物園大学 5 in 高知 ず〜ぜよ。
解説・総説	ニホンザルの個性と発達	山田一憲	201410	生産と技術 66: 64-67
その他	大阪大学人間科学部とは	山田一憲	201410	研伸館 ROYAL NAVI 2015 66-69

所属学系	国際交流室	氏名	上田 博司
------	-------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	3 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
		副査	件	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	交換留学生複数名
	副指導教員	1 名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	1 件	1 件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	掲載誌巻号頁/発行元
学術論文	The utilization of GIS in gerontology: Potential applications and ease of geographic information creation	Ueda, H.	201503	Osaka Human Sciences 1 巻,pp79-94 /
学術論文	大阪における認知症高齢者数の推計:2025年の高齢者像	上田博司	201503	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 41 巻,pp21-40 /

所属学系	学生支援室（先端人間科学）	氏名	前馬 優策
------	---------------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	4 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	0

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	0 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌巻号頁
著書	「一人も見捨てへん」教育:すべての子どもの学力向上に挑む	志水宏吉,茨木市教育委員会(編著),他	201407	東洋館出版社 49
著書	福井県の学力・体力がトップクラスの秘密	志水宏吉,前馬優策,川畑和久,野崎友花,中村瑛仁	201410	中央公論新社

所属学系	グローバル 30	氏名	LAM Lai Ming
------	----------	----	--------------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	9 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	2 件	2 件	8 件	件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌巻号頁
その他	"A Handbook for Enhancing English-Medium Program Quality and Practice: Towards Effective Teaching, Learning and Assessment" Beverley A. Yamamoto and Don Bysouth eds., Part Two, Chapter 8 "Syllabus Design"	Kim Viktoriya	201503	

- Lam, L. M (2015 Forthcoming) Conservation-led displacement, poverty and cultural survival: the experiences of the indigenous Rana Tharus community in far-western Nepal. In *Global Implications of Development, Disasters and Climate Change: Responses to Displacement from Asia Pacific* (eds), S. Price and Singer, J. Routledge.
- Lam, L. M (2014) Changes in Rana Tharu-Pahadia Relationships: Land, Politics and Caste. In *Ruptures and Repairs in South Asia: Historical perspectives* (ed) Y. Raj. Kathmandu: Martin Chautari Book Series 78. Pp.123-144.
- Lam, L. M. (Accepted paper, Forthcoming) 'Environment, Livelihood and Household: The Ethno-History of Rana Tharus Badaghar Households', *The Australian Journal of Anthropology*.
- Lam, L. M. & Paul, S. (2014) Disputed Land Rights and Conservation-led Displacement: A Double Whammy on the Poor, *Conservation and Society* 12 (1): 65-76

○受賞・特許・作品、他

- Received the Presidents' Educational Incentive Award (Osaka University) 2014

所属学系	グローバル 30	氏名	安元 佐織
------	----------	----	-------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	8 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	0

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	2 件	4 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌巻号頁
その他	"A Handbook for Enhancing English-Medium Program Quality and Practice: Towards Effective Teaching, Learning and Assessment" Beverley A. Yamamoto and Don Bysouth eds., Part Two, Chapter 8 "Syllabus Design"	Kim Viktoriya	201503	

所属学系	グローバル 30	氏名	キム・ヴィクトリヤ (Kim Viktoriya)
------	----------	----	---------------------------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	9 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	件	件
			副査	件	件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	名
	指導教員	名	名	留学生	2 名
	副指導教員	名	名	研究生	名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	件	3 件	1 件	件	1 件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌巻号頁
著書	日本の外国人学校 トランスナショナルリティをめぐる教育政策の課題	志水宏吉、中島智子、鍛冶致 編	201407	明石書店
学術論文	Gender Politics and Its Impact on Female Marriage Migration: Women from Former Soviet Union Countries in Japan	Kim, Viktoriya	201404	Japan Social Innovation Journal Vol. 4, No. 1 /
学術論文	『日本の外国人学校—トランスナショナルリティをめぐる教育政策の課題』志水宏吉、中島智子、鍛冶致編、第 5 部第 2 章「『西町文化』を発信する—西町インターナショナルスクール」	キム・ヴィクトリヤ(翻訳:藤田智博)	201407	
国際会議 (proc.なし)	Gender Construction and Migration: Female Migration from Former Soviet Union Countries to Japan	Kim Viktoriya	201404	European Social Science History Conference 2014
報告	Implementation and Impact of the IB Dual Language Diploma Program in Japanese Secondary Schools. Interim Report	Beverley Anne Yamamoto ed., Takahiro Saito, Maki Shibuya, Yukiko Ishikura, Mari Tsugawa, Adam Gyenes, Viktoriya Kim, Yujichiro Wajima, Kim Mawer, Chika Kitano	201503	
その他	"A Handbook for Enhancing English-Medium Program Quality and Practice: Towards Effective Teaching, Learning and Assessment" Beverley A. Yamamoto and Don Bysouth eds., Part Two, Chapter 8 "Syllabus Design"	Kim Viktoriya	201503	

所属学系	認知脳システム学に関する研究	氏名	小山 虎
------	----------------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	1 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	0 件	1 件	4 件	2 件	0 件	0 件	0 件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌巻号頁
口頭発表	Against Lewisian Modal Realism From a Metaontological Point of View	Tora Koyama	201408	CAPE Workshop on Meta-metaphysics
口頭発表	Creating New Waves in Philosophy of Trust	Tora Koyama, Masashi Kasaki	201408	The Second Conference on Contemporary Philosophy in East Asia
口頭発表	信頼の観点から見たロボットの安心と安全	小山虎	201409	第 32 回日本ロボット学会学術講演会
口頭発表	Trust and Artifacts	Masashi Kasaki, Fabio Dalla Libera, Yuichiro Yoshikawa, Tora Koyama	201412	Social Robots and the Future of Social Relations: Proceedings of Robo-Philosophy 2014 pp231-240 / Robo-Philosophy 2014 Seibt, J., Hakli, R., Nørskov, M. IOS Press

所属学系	先端人間科学	氏名	源 健宏
------	--------	----	------

(1) 平成 26 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①担当授業科目数	0 科目	②学位論文審査		博士	修士
			主査	0 件	0 件
			副査	0 件	0 件

③指導学生数	<大学院>	後期課程	前期課程	卒業研究指導学生	0 名
	指導教員	0 名	0 名	留学生	0 名
	副指導教員	0 名	0 名	研究生	0 名
				その他	0

(2) 平成 26 年度の研究活動に関する以下の項目について記述して下さい。

①研究業績の公表	著書	学術論文	国際会議	会議報告	大学等の報告	解説・総説	書評
	1 件	6 件	7 件	8 件	件	件	件
	その他						

○著書・論文

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌巻号頁
著書	他罰・自罰の方向性を切り分ける外側前頭前野. 苧阪直行(編) 自己を知る脳・他者を理解する脳.	源健宏, 苧阪直行	201407	新曜社
学術論文	Serial changes of humor comprehension for four-frame comic Manga: an fMRI study.	Osaka, M., Yaoi, K., Minamoto, T., & Osaka, N.	201407	Scientific Reports 42017.213888889
学術論文	Coactivation of the Default Mode Network regions and Working Memory Network regions during task preparation.	Koshino, H., Minamoto, T., Yaoi, K., Osaka, M., & Osaka, N.	201408	Scientific Reports 42016.301388889
学術論文	Relationships between priming and subsequent recognition memory	Miyoshi, K., Minamoto, T., Ashida, H.	201409	SpringerPlus 3 546 巻
学術論文	Robust order representation is required for backward recall in the Corsi blocks task.	Higo, K., Minamoto, T., Ikeda, T., & Osaka, M.	201411	Frontiers in Psychology 42015.1006944444 /
学術論文	The anodal tDCS over the left posterior parietal cortex enhances attention toward a focus word in a sentence.	Minamoto, T., Azuma, M., Yaoi, K., Ashizuka, A., Mima, T., Osaka, M., Fukuyama, H., & Osaka, N.	201412	Frontiers in Human Neuroscience 42014.0222222222
学術論文	Effect of memory load on eye movement control: A study using the reading span test.	Azuma, M., Minamoto, M., Yaoi, K., Osaka, M., & Osaka, N.	201412	Journal of Eye Movement Research 7(5):3, 1-9
口頭発表	Neural synchronization during cooperated humming: A hyperscanning study using fNIRS.	Osaka, N., Minamoto, T., Yaoi, K., Azuma, M., & Osaka, M.	201404	Procedia - Social and Behavioral Sciences 126, 241-243 / International Conference on Timing and Time Perception

分類 (著書/論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌巻号頁
口頭発表	鎮静レベルのミダゾラムとプロポフォールの記憶への影響	荻阪満里子・中江文・池田尊司・源健宏・萩平哲・藤野裕士	201405	日本麻酔科学会第 61 回大会
口頭発表	Effect of midazolam and propofol sedation on memory function.	Nakae A., Osaka M., Ikeda T., Minamoto T., Hagihira S., & Fujino Y.	201406	European Journal of Anaesthesiology 31, Supplement 52, 120 / Euroanaesthesia 2014
口頭発表	Neural correlates of working memory under the second order false belief task: An event-related fMRI study based on theory of mind.	Osaka, N., Yaoi, K., Minamoto, T., & Osaka, M.	201407	Poster Abstracts 42099 / International Conference on Working Memory 2014
口頭発表	三段階の鎮静におけるワーキングメモリ	荻阪 満里子, 遠藤 香織, 池田 尊司, 源健宏, 中江 文	201409	発表論文集 738 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	ワーキングメモリにおける特徴統合と脳の同期的活動	源健宏, 池田尊司, 遠藤香織, 中江文, 荻阪満里子	201409	発表論文集 740 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	意図と関係性を理解する脳内神経基盤—fMRI による検討—	矢追健, 源健宏, 荻阪満里子, 荻阪直行	201409	発表論文集 753 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	ハイパースキャニングによる協調活動時の脳同期的活動の測定—fNIRS による検討—	荻阪直行, 源健宏, 矢追健, 東美由紀, 荻阪満里子	201409	発表論文集 766 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	RST 遂行中の眼球運動における記憶負荷の影響	東美由紀, 源健宏, 矢追健, 荻阪満里子, 荻阪直行	201409	発表論文集 850 / 日本心理学会第 78 回大会
口頭発表	Conscious level required for working memory and long-term memory functions: An anesthesia study in humans.	Osaka, M., Endo, K., Ikeda, T., Minamoto, T., Nakae, A., Hagihira, S., Fujino, Y., & Mashimo, T.	201411	Program #173.15 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	Neural correlates of intention and relationship attribution of animated motion: An fMRI study.	Yaoi, K., Minamoto, T., Osaka, M., & Osaka, N.	201411	Program #460.08 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	Rinzai Zen meditators are superior to resolve semantic interference: An fMRI study based on a Stroop paradigm.	Osaka, N., Yaoi, K., Minamoto, T., Azuma, M., & Osaka, M.	201411	Program #554.14 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	Temporal desynchronisation may underlie audio-spatial binding in working memory: An EEG study under anesthesia in humans.	Minamoto, T., Ikeda, T., Endo, K., Nakae, A., Hagihira, S., Fujino, Y., Mashimo, T., & Osaka, M.	201411	Program #554.05 / 44th annual meeting of the Society for Neuroscience
口頭発表	Two brains make one Mind: Hyperscanning study on synchronized singing/humming between two people using fNIRS.	Osaka, N., Minamoto, T., Yaoi, K., Azuma, M., & Osaka, M.	201411	Abstract 6 / Psychonomic Society's 55th Annual Meeting
口頭発表	麻酔薬がワーキングメモリの特徴統合と前頭葉の同期的活動に及ぼす影響	源健宏, 池田尊司, 中江文, 荻阪満里子	201412	アブストラクト集 no. 12 / 日本ワーキングメモリ学会第 12 回大会

○受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
201405	荻阪満里子, 中江文, 池田尊司, 源健宏, 萩平哲, 藤野裕士	優秀演題	日本麻酔科学会